

令和6年度（2024年度）宮崎支部医療費統計分析

2026年7月14日

全国健康保険協会 宮崎支部

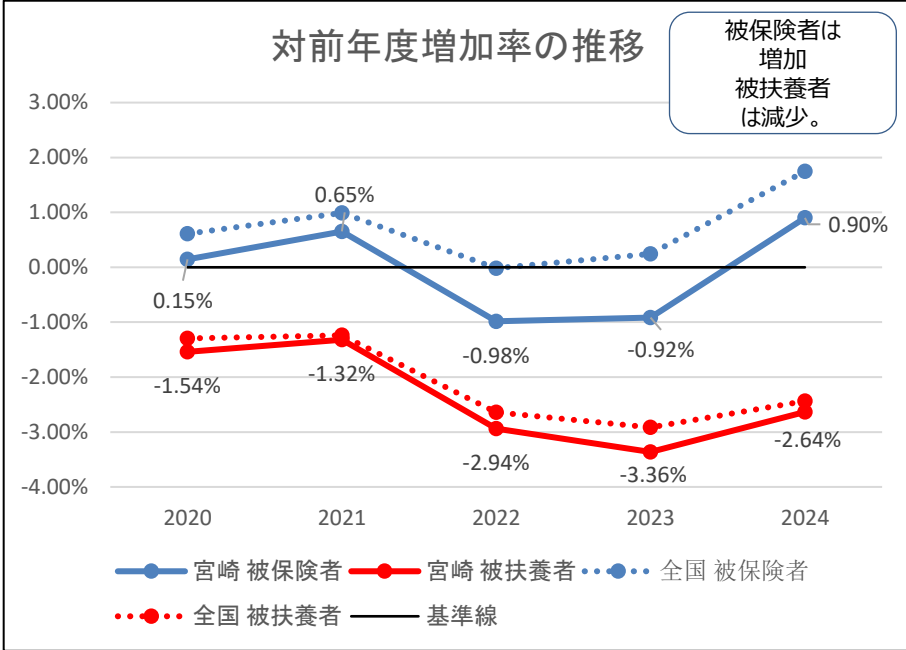
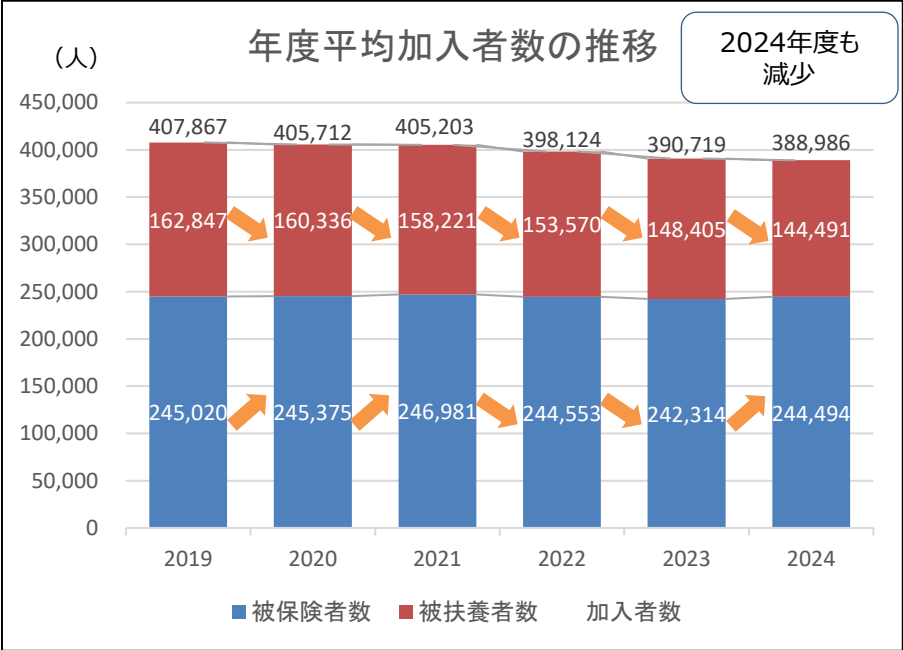
本資料は、全国と比較した宮崎支部の加入者数や報酬、保険給付や医療費の基本的な情報について、2024年度を中心に報告を行うものである。

【目次】

項番	項目名	ページ
1	平均加入者数の状況	2～4
2	業態別被保険者数の状況	5
3	標準報酬月額状況	6
4	保険給付費の状況	7～9
5	一人当たり医療費の状況	10～11
6	全国平均との比較	12～16
7	疾病別医療費の状況	17～19
8	疾病別医療費の全国乖離額の状況	20～25
9	まとめ	26

1- 1 .支部平均加入者数について

加入者数は2020年度から減少が続いており、2024年度も減少となった。全国では被保険者は1.75%増であり、宮崎支部では0.90%増加した。被扶養者は、全国、宮崎ともに減少傾向にある。



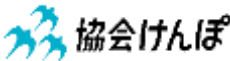
(参考：全国の平均加入者数の推移)

年度	被保険者数	被扶養者数	加入者数
2019	24,732,958	15,611,583	40,344,542
2020	24,883,571	15,409,154	40,292,726
2021	25,130,238	15,218,247	40,348,485
2022	25,126,162	14,815,980	39,942,142
2023	25,187,750	14,384,003	39,571,752
2024	25,627,730	14,033,695	39,661,425

(対前年度伸び率の推移)

年度	宮崎被保険者	宮崎被扶養者	全国被保険者	全国被扶養者
2020	0.15%	-1.54%	0.61%	-1.30%
2021	0.65%	-1.32%	0.99%	-1.24%
2022	-0.98%	-2.94%	-0.02%	-2.64%
2023	-0.92%	-3.36%	0.25%	-2.92%
2024	0.90%	-2.64%	1.75%	-2.44%

※ここでいう「(平均) 加入者数」は各月末時点の数値を累計し12で除した値。任意継続加入者を含む。



1-2. 性別・年齢階級別加入者数について

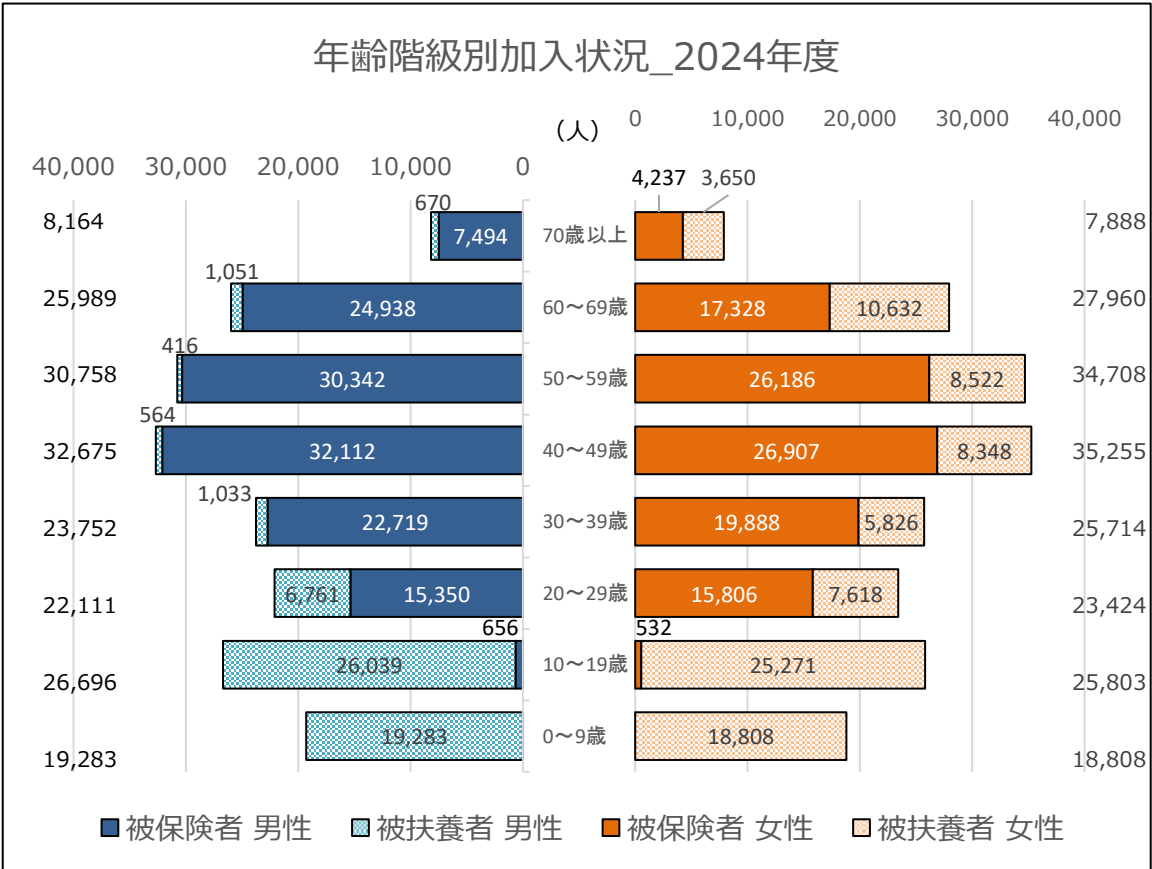
前年度と比較すると、被保険者は男性・女性ともに60歳代で減少した一方で、男性は50歳代、女性は50～70歳代で増加した。被扶養者のうち女性は、0～9歳以外の年齢階層で減少した。

(対前年度伸び率〔括弧内は比較用の前年度数値〕)

年齢階級	被保険者 男性	被扶養者 男性
0～9歳		-4.3%(-4.3%)
10～19歳	-4.9%(7.1%)	0.4%(0.1%)
20～29歳	0.5%(0.6%)	-1.4%(-2.2%)
30～39歳	-2.5%(-2.8%)	1.8%(-5.8%)
40～49歳	-1.5%(-2.0%)	-0.4%(2.1%)
50～59歳	3.2%(3.7%)	-3.2%(-5.8%)
60～69歳	0.2%(-3.9%)	-3.4%(-8.5%)
70歳以上	3.6%(0.7%)	-11.4%(-6.4%)
平均	0.2%(-0.8%)	-1.8%(-2.2%)

年齢階級	被保険者 女性	被扶養者 女性
0～9歳		-4.3%(-3.8%)
10～19歳	-4.0%(5.3%)	0.3%(-0.2%)
20～29歳	0.7%(-1.0%)	-2.1%(-1.9%)
30～39歳	-0.4%(-2.1%)	-9.3%(-10.5%)
40～49歳	0.0%(-2.7%)	-5.8%(-7.5%)
50～59歳	4.5%(0.2%)	-3.7%(-4.1%)
60～69歳	2.8%(-0.6%)	-3.3%(-7.6%)
70歳以上	9.2%(6.0%)	-4.3%(-4.4%)
平均	1.8%(-1.0%)	-3.2%(-4.1%)

男性30歳代・40歳代の被保険者伸び率は前年比マイナス



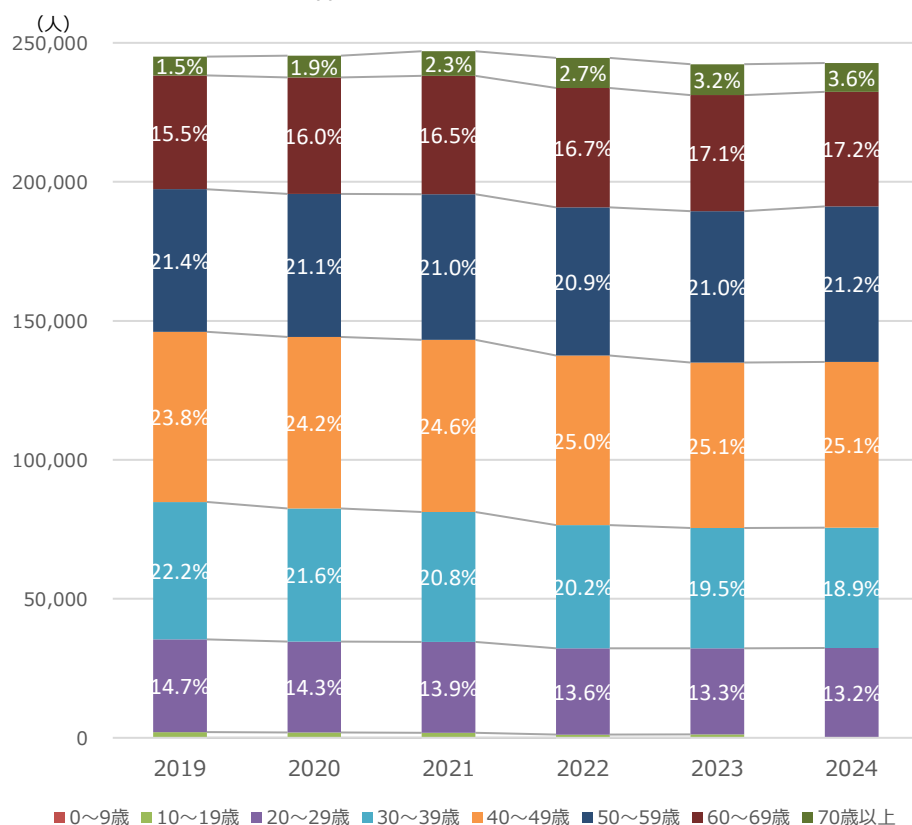
※年齢は年度末時点のもの。端数処理のため計数が整合しない場合がある。

1-3.加入者の年齢構成状況の推移

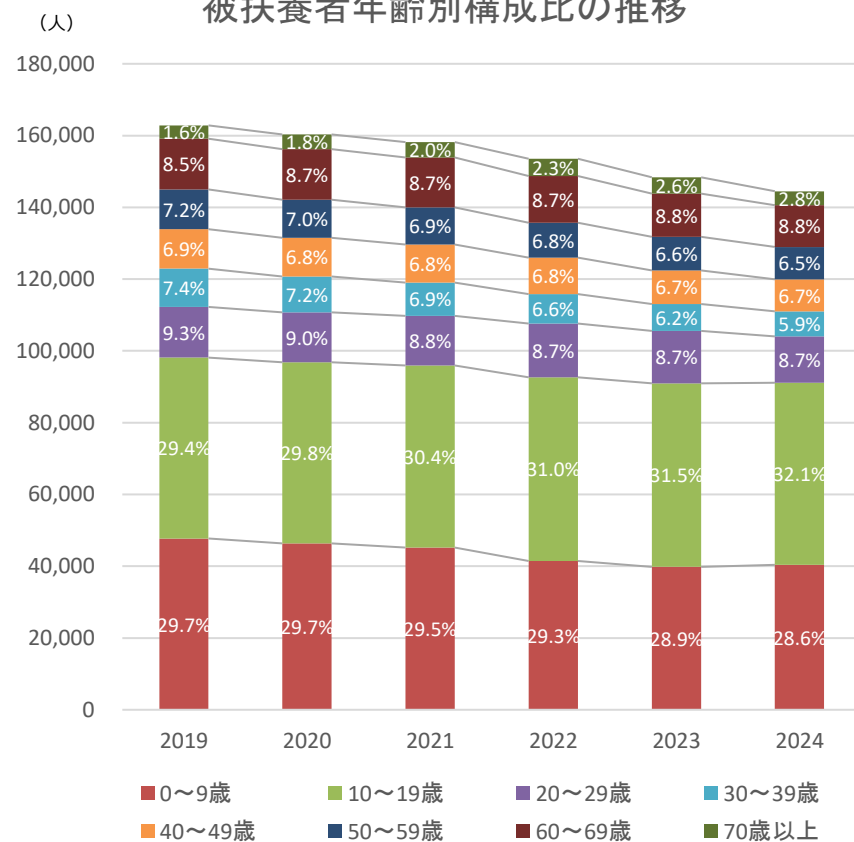
6年間の年齢構成の比率の推移を見ると、被保険者では50歳代及び70歳代の占める割合が年々増加しており、40歳代以下の年齢階層の割合が減少する傾向にある。

被扶養者では、10～19歳までの年齢階層が割合が増加する傾向にあり、0～19歳までの割合は全体の6割を占める。

被保険者年齢別構成比の推移

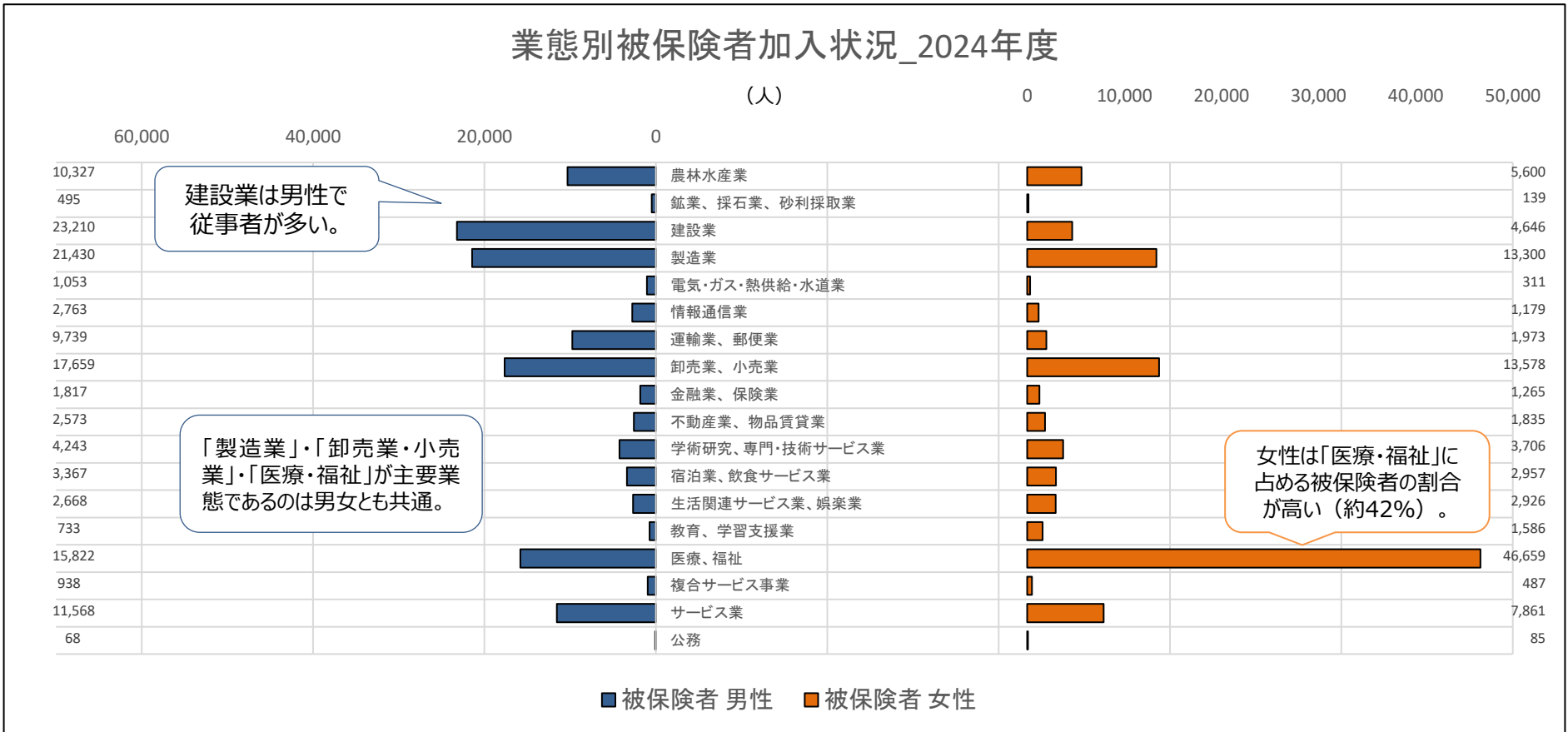


被扶養者年齢別構成比の推移



2-1. 被保険者の業態別加入状況

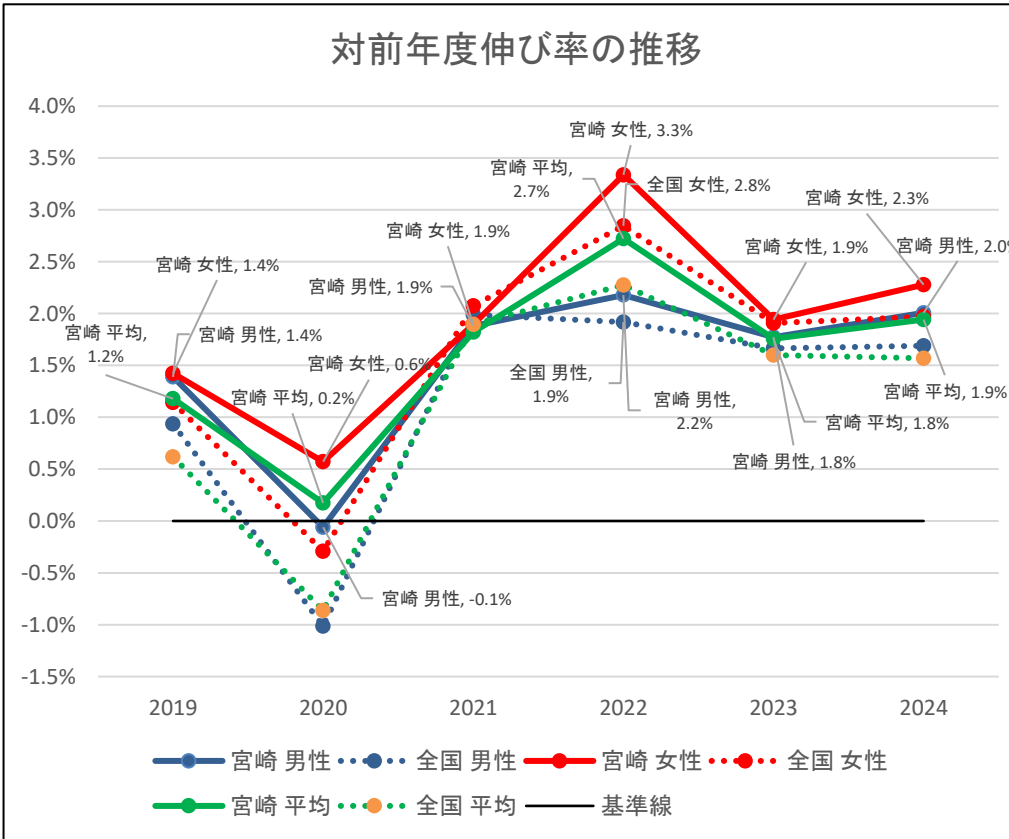
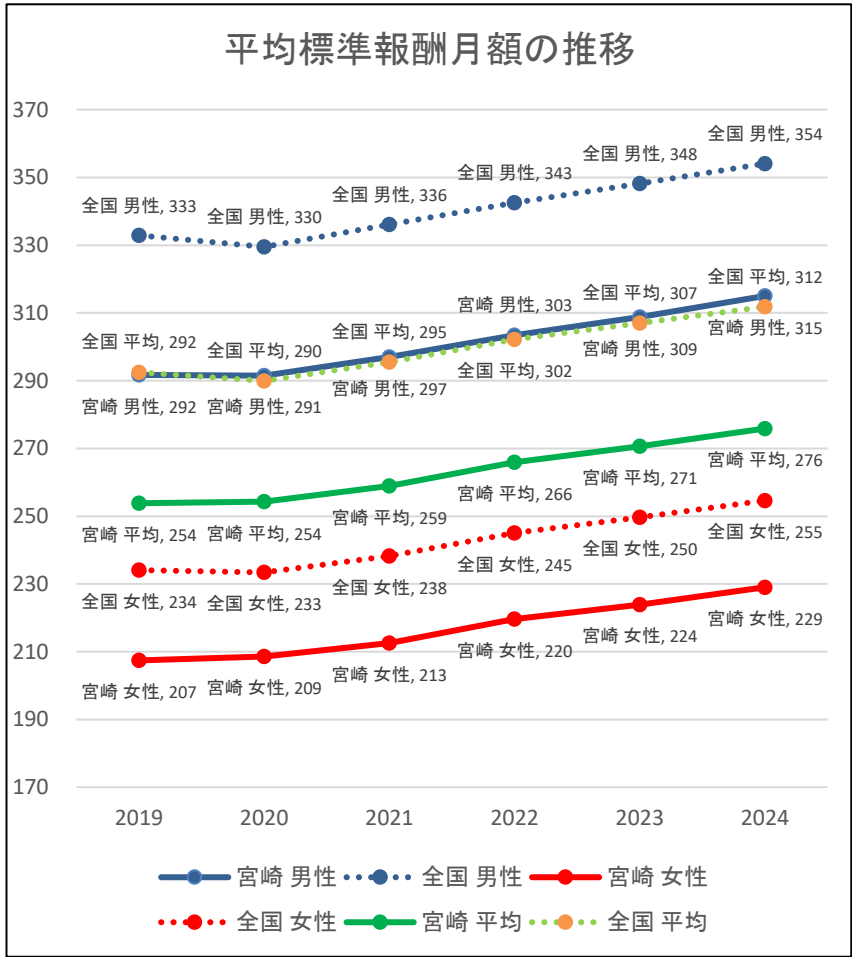
2024年度末の業態別の被保険者数について、男性では「建設業」「製造業」「卸売業、小売業」「医療、福祉」の業態が多く、女性は「医療・福祉」が多数を占めるという違いはあるものの、主要な業態は男性と同じである。



※業態別で示されている数値は年度末の被保険者数であり、集計時点も異なるため、これまでの被保険者数と一致しない。以降も年度末時点の情報を示す。
※新たな業態である「土業（有資格者が法律・会計関係の業務を行う事業）」は「学術研究・専門技術サービス業」に区分している。

3. 標準報酬月額状況

平均標準報酬月額の推移状況では、2021年度以降は対前年度比で上昇が続いている。
宮崎支部の2024年度の対前年度伸び率は男性+2.0%、女性+2.3%。全国は男性+1.7%、女性+2.0%であり、全国と比較して伸び率に大きな差はなかった。



※標準報酬月額の数値は年度末時点のものを用いている。ここでいう「報酬」の金額は月額
の給与金額を基礎としており、原則として賞与は含まれてない点に注意（年4回以上の賞与
であれば含む）。

4-1.保険給付費の推移状況

保険給付費の推移を確認すると、2024年度は金額にして約710億円と前年度より約2億円減少し、対前年度比－0.2％であった。内訳として入院で＋1.4％、入院外で－3.7％、調剤（薬剤支給）は0％と、入院外の医療費が減少した。

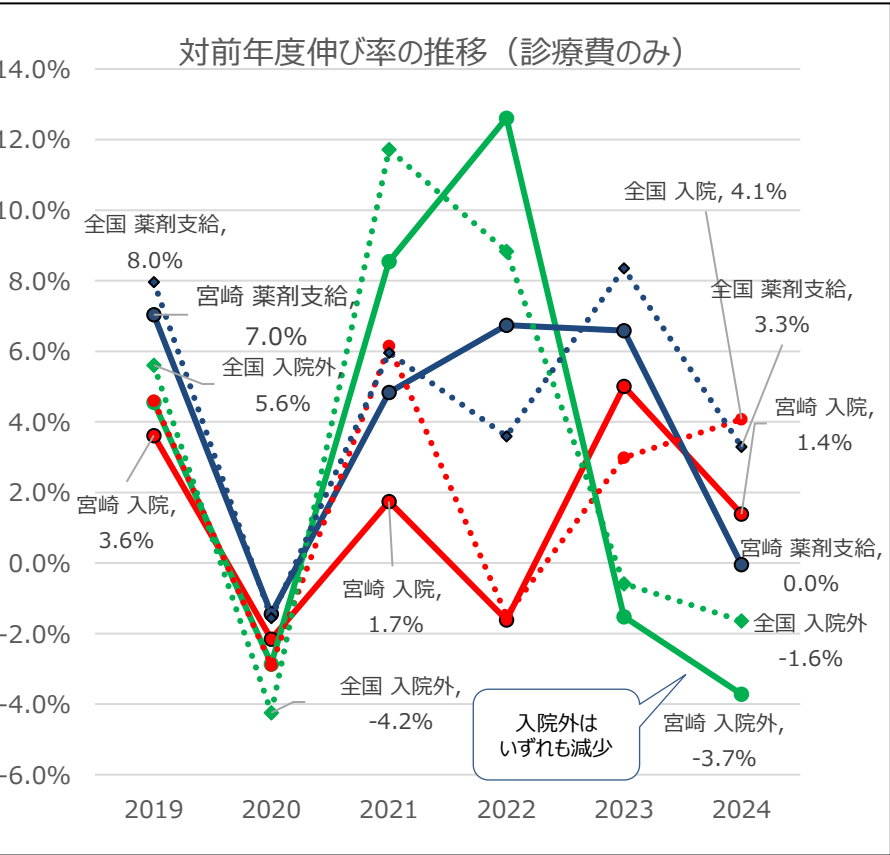
（保険給付額と伸び率の推移）

			2020年度	2021年度	（伸び率）	2022年度	（伸び率）	2023年度	（伸び率）	2024年度	（伸び率）
保険給付費計			63,390,221	66,417,665	（4.8%）	69,875,398	（5.2%）	71,198,417	（1.9%）	71,072,475	（－0.2%）
医療給付	医療給付費計		58,277,385	61,140,131	（4.9%）	64,325,792	（5.2%）	65,739,351	（2.2%）	65,345,760	（－0.6%）
	診療費	計	46,213,302	48,509,482	（5.0%）	51,030,386	（5.2%）	51,614,992	（1.1%）	51,110,385	（－1.0%）
		入院	19,484,353	19,824,099	（1.7%）	19,503,811	（－1.6%）	20,480,187	（5.0%）	20,763,814	（1.4%）
		入院外	21,165,718	22,975,125	（8.5%）	25,872,830	（12.6%）	25,479,738	（－1.5%）	24,532,074	（－3.7%）
		歯科	5,563,231	5,710,258	（2.6%）	5,653,746	（－1.0%）	5,655,067	（0.0%）	5,814,497	（2.8%）
	薬剤支給		10,713,463	11,231,375	（4.8%）	11,988,339	（6.7%）	12,778,281	（6.6%）	12,773,001	（0.0%）
	入院時食事療養費・生活療養費 （標準負担額差額支給を除く）		230,668	225,523	（－2.2%）	210,898	（－6.5%）	214,038	（1.5%）	206,425	（－3.6%）
	訪問看護療養費		219,195	254,144	（15.9%）	264,944	（4.2%）	315,547	（19.1%）	391,847	（24.2%）
	入院時食事療養費・生活療養費 （標準負担額差額支給）		400	568	（42.1%）	284	（－50.0%）	353	（24.3%）	264	（－25.1%）
	療養費		678,368	723,335	（6.6%）	663,809	（－8.2%）	647,154	（－2.5%）	642,546	（－0.7%）
	移送費		263	57	（－）	0	（－100.0%）	0	（－）	122	－
	高額療養費（合計）		221,690	195,393	（－11.9%）	167,133	（－14.5%）	168,979	（1.1%）	221,168	（30.9%）
その他の現金給付	その他の現金給付計		5,112,836	5,277,534	（3.2%）	5,549,606	（5.2%）	5,459,066	（－1.6%）	5,726,716	（4.9%）
	傷病手当金		2,426,835	2,541,872	（4.7%）	2,993,484	（17.8%）	2,853,865	（－4.7%）	3,100,097	（8.6%）
	埋葬料		20,400	19,403	（－4.9%）	20,558	（6.0%）	20,879	（1.6%）	21,473	（2.8%）
	出産育児一時金		1,767,492	1,753,216	（－0.8%）	1,614,684	（－7.9%）	1,643,647	（1.8%）	1,731,792	（5.4%）
	出産手当金		898,110	963,043	（7.2%）	920,880	（－4.4%）	940,675	（2.1%）	873,354	（－7.2%）

※新型コロナの流行状況によって傷病手当金の申請状況は大きく変動するため、患者数が多かった2022年度は大幅な伸び。

4-2.保険給付費の伸び率全国比較

保険給付費の伸び率を全国と比較すると、昨年度同様、2024年度では全国を下回っている。入院では宮崎+1.4%で全国+4.0%の伸び率を下回り、薬剤支給では宮崎+0%で全国+3.3%の伸び率を下回り、入院外は宮崎-3.7%で全国-1.6%よりも減少の幅は大きい。2021年度・2022年度における入院外の対前年度伸び率が高い要因として、新型コロナ発生による受診控えの反動、新型コロナの流行拡大が考えられる。



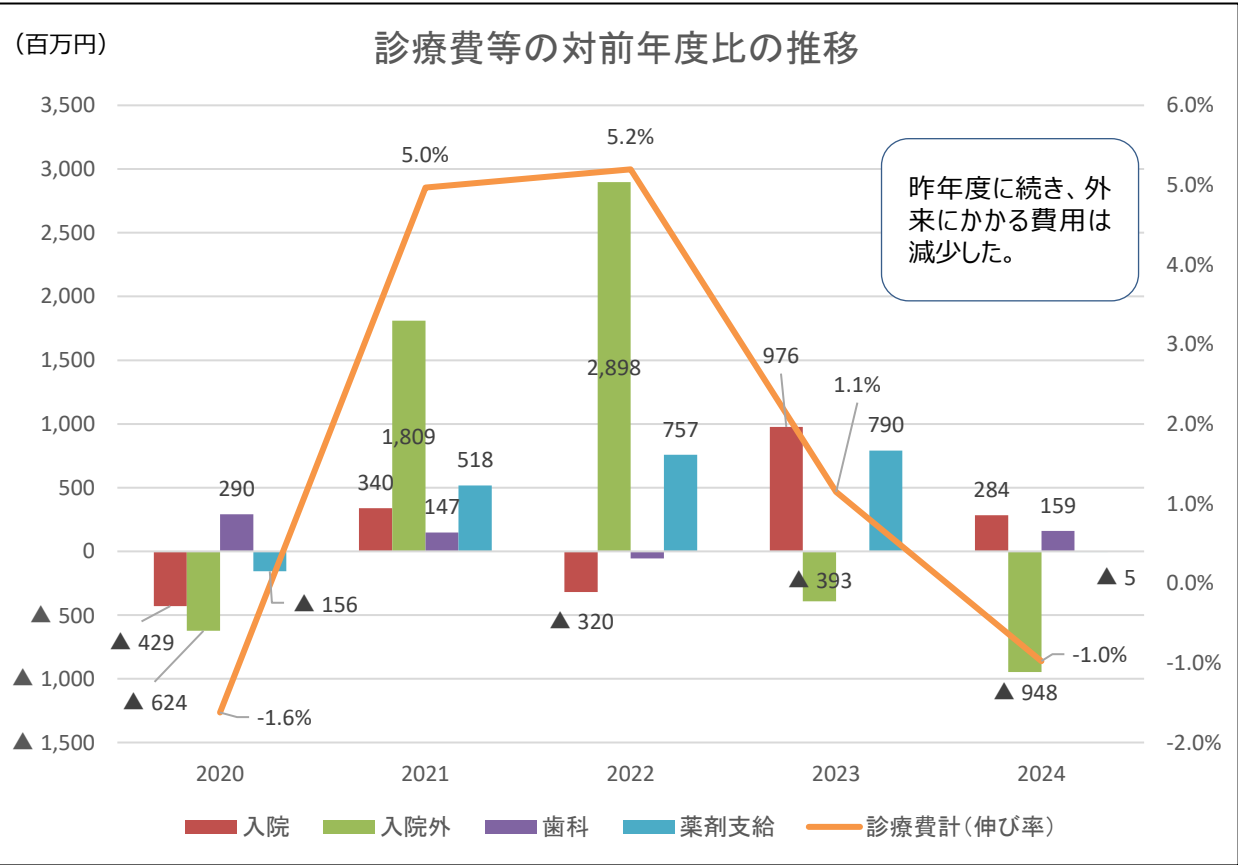
(保険給付伸び率の推移)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国
保険給付費計	4.8%	7.6%	5.2%	4.0%	1.9%	2.3%	-0.2%	1.9%
医療給付費計	4.9%	7.9%	5.2%	3.6%	2.2%	2.4%	-0.6%	1.7%
診療費計	5.0%	8.6%	5.2%	3.8%	1.1%	0.9%	-1.0%	1.2%
入院	1.7%	6.2%	-1.6%	-1.5%	5.0%	3.0%	1.4%	4.1%
入院外	8.5%	11.7%	12.6%	8.8%	-1.5%	-0.6%	-3.7%	-1.6%
歯科	2.6%	4.7%	-1.0%	0.5%	0.0%	1.3%	2.8%	4.5%
薬剤支給	4.8%	6.0%	6.7%	3.6%	6.6%	8.4%	0.0%	3.3%
入院時食事療養費・生活療養費 (標準負担額差額支給を除く)	-2.2%	-0.1%	-6.5%	-5.7%	1.5%	0.7%	-3.6%	0.1%
訪問看護療養費	15.9%	16.5%	4.2%	10.9%	19.1%	15.4%	24.2%	16.0%
入院時食事療養費・生活療養費 (標準負担額差額支給)	42.1%	-21.9%	-50.0%	-9.5%	24.3%	21.1%	-25.1%	11.8%
療養費	6.6%	1.7%	-8.2%	-3.9%	-2.5%	1.3%	-0.7%	-0.3%
移送費	-78.3%	-53.4%	-100%	14.0%	-	219.0%	-	-5.8%
高額療養費(合計)	-11.9%	-8.7%	-14.5%	-9.8%	1.1%	5.4%	30.9%	-0.8%
その他の現金給付計	3.2%	4.6%	5.2%	8.4%	-1.6%	1.9%	4.9%	4.5%
傷病手当金	4.7%	8.5%	17.8%	18.3%	-4.7%	-1.7%	8.6%	7.2%
埋葬料	-4.9%	-1.0%	6.0%	0.1%	1.6%	-4.4%	2.8%	-0.5%
出産育児一時金	-0.8%	-0.9%	-7.9%	-6.3%	1.8%	10.0%	5.4%	0.2%
出産手当金	7.2%	2.3%	-4.4%	2.4%	2.1%	2.6%	-7.2%	2.3%

※協会けんぽ月報より

4-3.診療費等の対前年度増減額の推移状況

診療費を見ると、入院外の給付費は2022年度の約29億円の増加となっていたが、2023年度は約3.9億円の減少、2024年度も約9.5億円の減少となった。一方、入院の給付費は約2.8億円増加した。対前年度給付費は減少した。

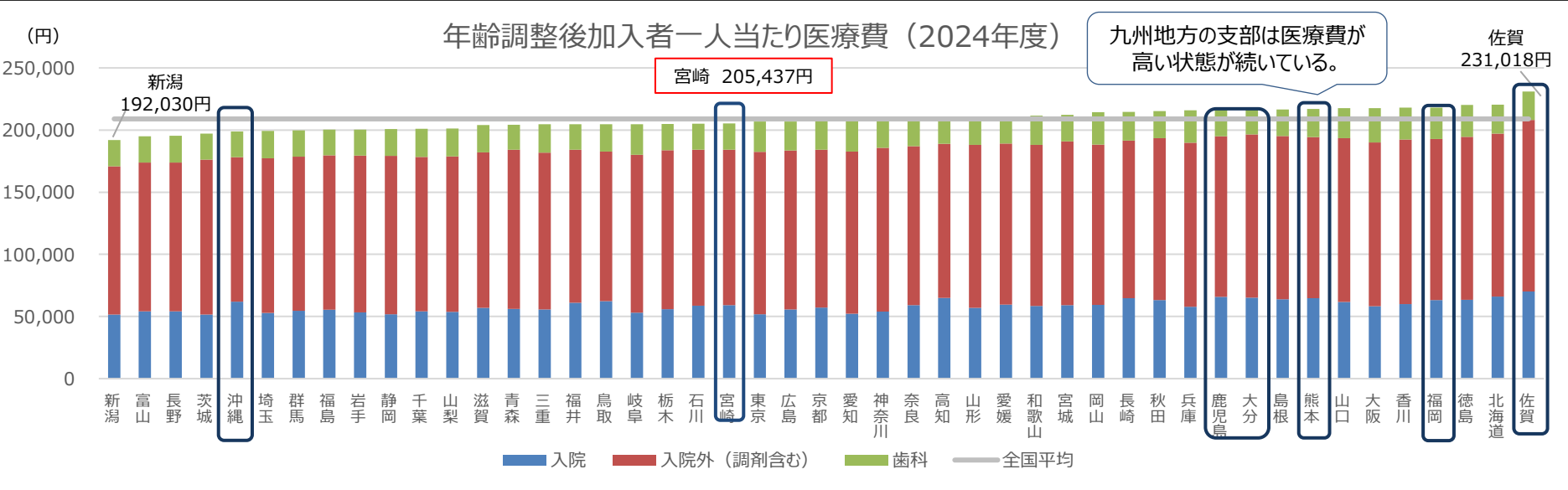


※協会けんぽ月報より

		(診療費等の対前年度伸び率の推移) (%)			
		2021	2022	2023	2024
診療費計	件数	5.0	5.0	2.1	0.1
	日数	2.3	2.1	0.9	-1.0
	給付費	5.0	5.2	1.1	-1.0
入院	件数	-0.2	-3.6	1.4	-1.1
	日数	-2.0	-5.6	2.1	-2.5
	給付費	1.7	-1.6	5.0	1.4
入院外	件数	5.1	6.6	2.1	-0.6
	日数	3.8	5.0	1.3	-1.1
	給付費	8.5	12.6	-1.5	-3.7
歯科	件数	5.1	-0.9	2.0	3.4
	日数	-0.5	-4.5	-1.0	0.3
	給付費	2.6	-1.0	0.0	2.8
薬剤支給	件数	5.1	7.0	5.2	0.2
	日数	4.9	6.1	5.9	-0.1
	給付費	4.8	6.7	6.6	-0.0

5-1.年齢調整後加入者一人当たり医療費の状況

宮崎支部の2024年度年齢調整後一人当たり医療費は205,437円であった（21位）。最も低い新潟支部が192,030円、最も高い支部は佐賀支部で231,018円だった。九州地方の多くの支部が医療費が高い中、宮崎支部は全国平均（208,959円）より3,522円低かった。



（診療種別の年齢調整後一人当たり医療費と順位〈九州・沖縄地方のみ〉）※（ ）内の順位は昇順・医療費が低い順。

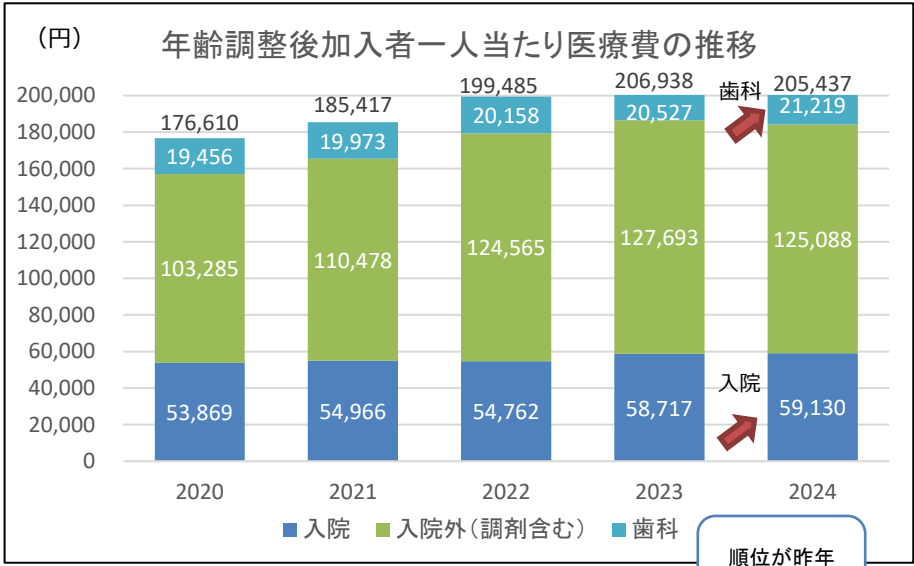
支部コード	支部	入院（順位）	入院外（順位）	歯科（順位）	合計 順位
40	福岡	63,214 (38)	129,689 (31)	25,230 (41)	218,134 (44)
41	佐賀	70,197 (47)	137,899 (47)	22,922 (30)	231,018 (47)
42	長崎	64,781 (42)	126,854 (19)	23,079 (32)	214,713 (34)
43	熊本	64,674 (41)	129,639 (30)	22,730 (28)	217,044 (40)
44	大分	65,243 (44)	131,146 (39)	20,068 (1)	216,457 (38)
45	宮崎	59,130 (28)	125,088 (15)	21,219 (15)	205,437 (21)
46	鹿児島	65,873 (45)	129,183 (28)	21,215 (14)	216,270 (37)
47	沖縄	61,977 (35)	116,256 (1)	20,550 (4)	198,783 (5)

合計は27位から21位に順位を上げた。（2023年度:入院33位、入院外20位、歯科16位）。

● 加入者基本情報、医療費基本情報より。入院外に薬剤含む。（以下同じ）

5-2.年齢調整後加入者一人当たり医療費の推移状況

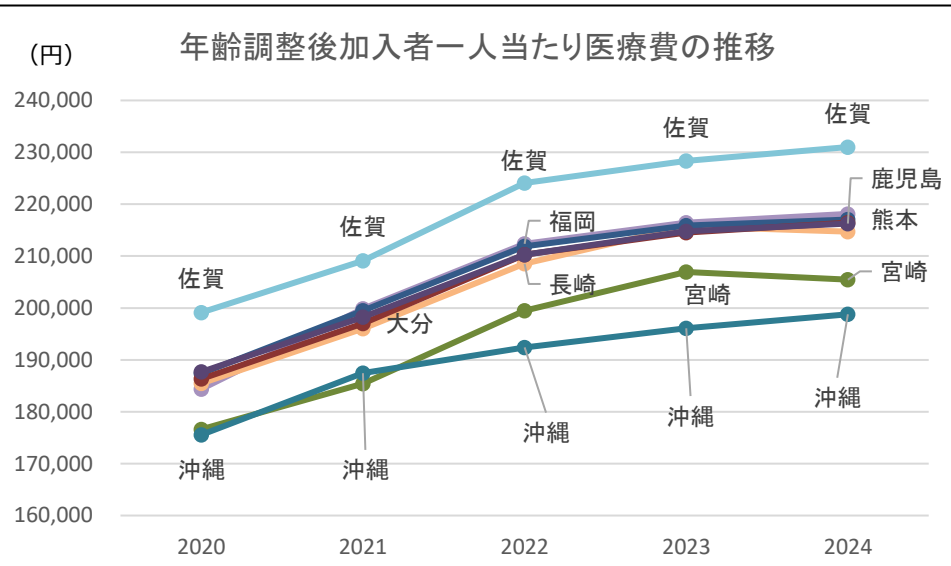
一人当たり医療費の推移状況を見ると、入院外は昨年度より減少したが、入院、歯科は上昇し、どちらも過去5年間で最も高い状況となった。



(診療種別の年齢調整後一人当たり医療費と順位の推移)

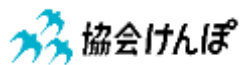
項目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
入院	54,966	54,762	58,717	59,130
順位 (入院)	27	28	33	28
入院外 (調剤含む)	110,478	124,565	127,693	125,088
順位 (入院外)	7	21	20	15
歯科	19,973	20,158	20,527	21,219
順位 (歯科)	17	19	16	15
総計	185,417	199,485	206,938	205,437
順位	15	22	27	21

※年齢調整は各年度毎の全国の構成割合を元に調整している。() 内の順位は昇順・医療費が低い順。



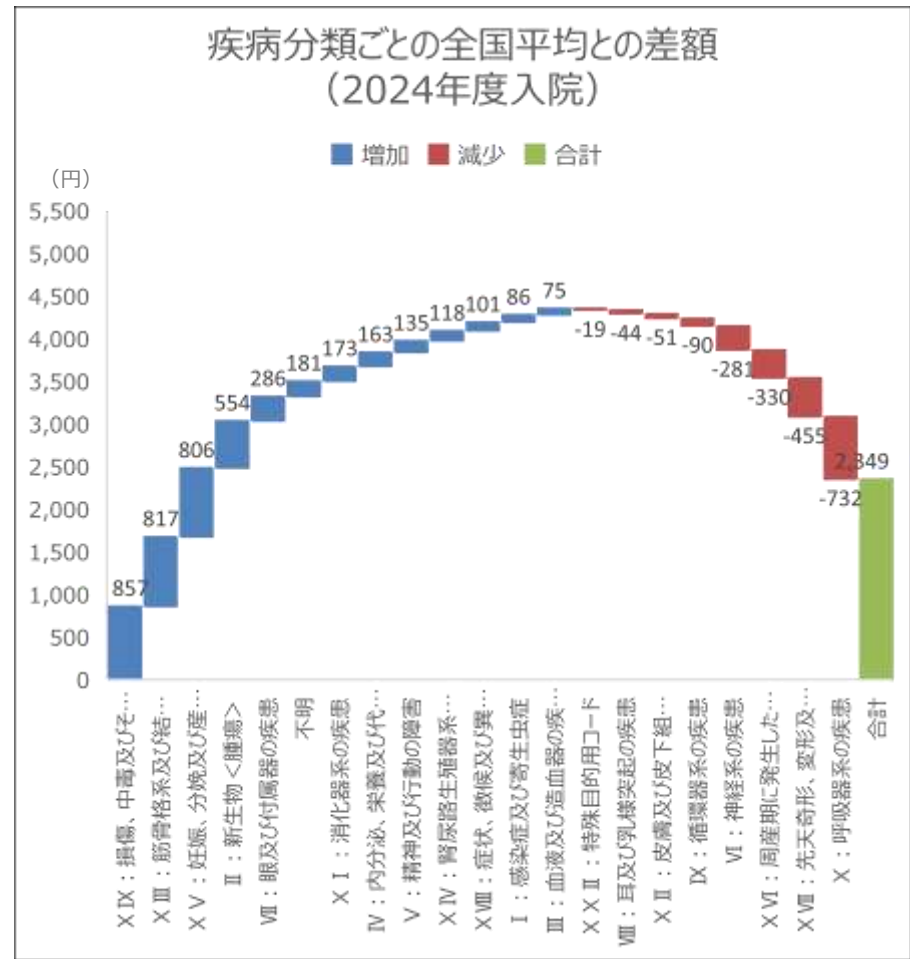
(年齢調整後一人当たり医療費と順位の推移<九州・沖縄地方のみ>)

支部名	2021年度	2022年度 (順位)	2023年度 (順位)	2024年度 (順位)
福岡	199,873	212,364 (45)	216,438 (44)	218133 (44)
佐賀	209,115	224,071 (47)	228,324 (47)	231017 (47)
長崎	196,057	208,520 (38)	215,714 (41)	214713 (34)
熊本	199,487	211,865 (44)	215,872 (42)	217043 (40)
大分	197,009	210,280 (41)	214,531 (37)	216456 (38)
宮崎	185,417	199,485 (22)	206,938 (27)	205437 (21)
鹿児島	198,258	210,269 (40)	214,768 (38)	216270 (37)
沖縄	187,434	192,411 (7)	196,085 (4)	198783 (5)



6-1全国平均からの乖離状況

一人当たり入院医療費では、全国平均とのプラス乖離が最も大きい疾病は「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、次に「筋骨格系及び結合組織の疾患」であり、2つの疾病が宮崎の入院医療費を押し上げていることが確認できた。



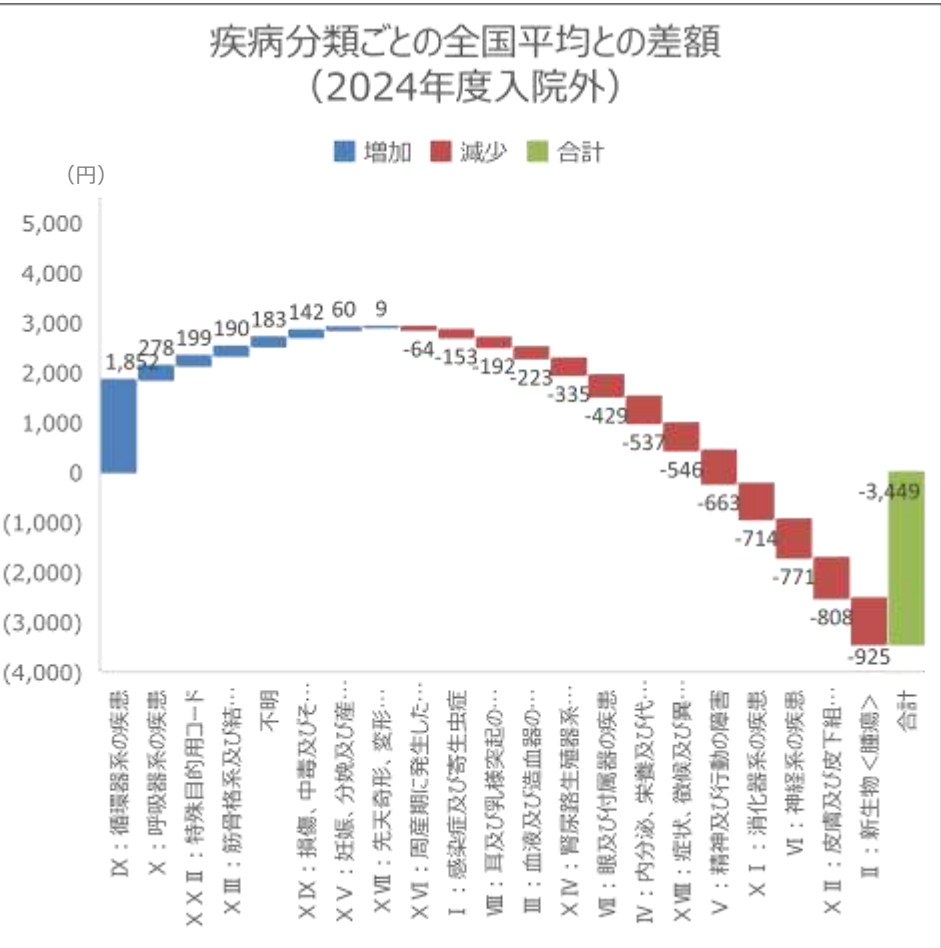
※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

(単位：円)

疾病大分類	2024年度 宮崎	2024年度 全国	全国平均 との乖離額
I : 感染症及び寄生虫症	1,009	922	86
II : 新生物<腫瘍>	13,975	13,421	554
III : 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	556	481	75
IV : 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,285	1,122	163
V : 精神及び行動の障害	2,029	1,894	135
VI : 神経系の疾患	2,211	2,493	-281
VII : 眼及び付属器の疾患	1,283	997	286
VIII : 耳及び乳様突起の疾患	238	282	-44
IX : 循環器系の疾患	10,581	10,671	-90
X : 呼吸器系の疾患	2,232	2,964	-732
X I : 消化器系の疾患	4,221	4,048	173
X II : 皮膚及び皮下組織の疾患	382	433	-51
X III : 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,733	4,916	817
X IV : 腎尿路生殖器系の疾患	2,241	2,123	118
X V : 妊娠、分娩及び産じょく	2,820	2,015	806
X VI : 周産期に発生した病態	1,429	1,759	-330
X VII : 先天奇形、変形及び染色体異常	879	1,334	-455
X VIII : 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	420	319	101
X IX : 損傷、中毒及びその他の外因の影響	5,112	4,255	857
X X II : 特殊目的用コード	130	149	-19
不明	365	185	181
合計	59,130	56,781	2,349

6-1全国平均からの乖離状況

一人当たり入院外医療費は、全国平均とのプラスの乖離が最も大きい疾病は「循環器系の疾患」であり、次に大きい疾病は「呼吸器系の疾患」であった。一方、「新生物〈腫瘍〉」はマイナスの乖離が最も大きく、入院外医療費全体では、全国平均を下回った。



※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

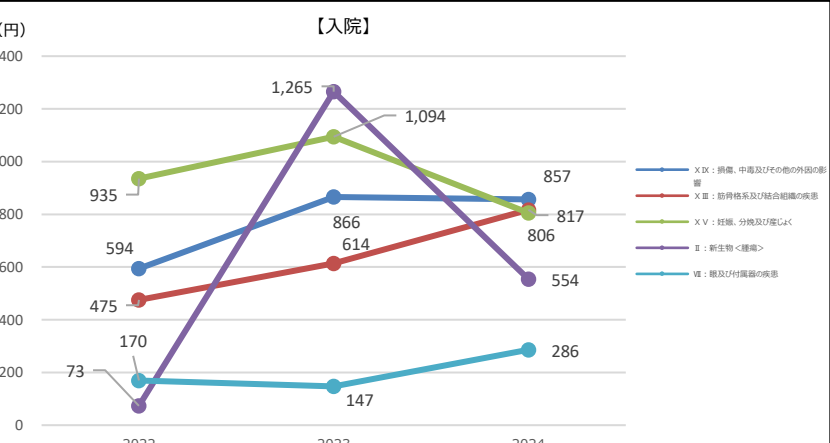
(単位：円)			
疾病大分類	2024年度 宮崎	2024年度 全国	全国平均 との乖離額
I：感染症及び寄生虫症	3,762	3,915	-153
II：新生物〈腫瘍〉	12,807	13,733	-925
III：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,303	2,526	-223
IV：内分泌、栄養及び代謝疾患	13,803	14,341	-537
V：精神及び行動の障害	5,347	6,010	-663
VI：神経系の疾患	4,170	4,941	-771
VII：眼及び付属器の疾患	5,132	5,561	-429
VIII：耳及び乳様突起の疾患	1,197	1,389	-192
IX：循環器系の疾患	15,191	13,340	1,852
X：呼吸器系の疾患	18,371	18,092	278
X I：消化器系の疾患	7,505	8,219	-714
X II：皮膚及び皮下組織の疾患	7,341	8,149	-808
X III：筋骨格系及び結合組織の疾患	9,680	9,491	190
X IV：腎尿路生殖系の疾患	8,415	8,751	-335
X V：妊娠、分娩及び産じょく	296	236	60
X VI：周産期に発生した病態	283	348	-64
X VII：先天奇形、変形及び染色体異常	1,149	1,140	9
X VIII：症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの	2,070	2,615	-546
X IX：損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,303	3,161	142
X X II：特殊目的用コード	1,678	1,479	199
不明	1,283	1,100	183
合計	125,088	128,537	-3,449

6-2.全国平均からの乖離状況の推移（2022年度→2024年度）

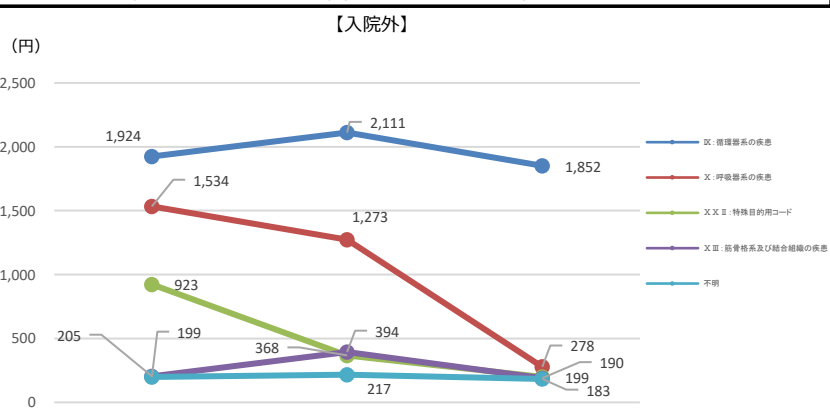
入院医療費では、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」の乖離額が最も高かった。また、「妊娠、分娩及び産じょく」は乖離額が高い状態が続いている。入院外医療費では、新型コロナの流行が収まり「呼吸器系の疾患」と「特殊目的用コード」は乖離額が減少している。「循環器系の疾患」の乖離額が最も高い状態が続いている。

（全国平均との乖離額の推移：2024年度乖離額上位5疾病のみ）

（単位：円）



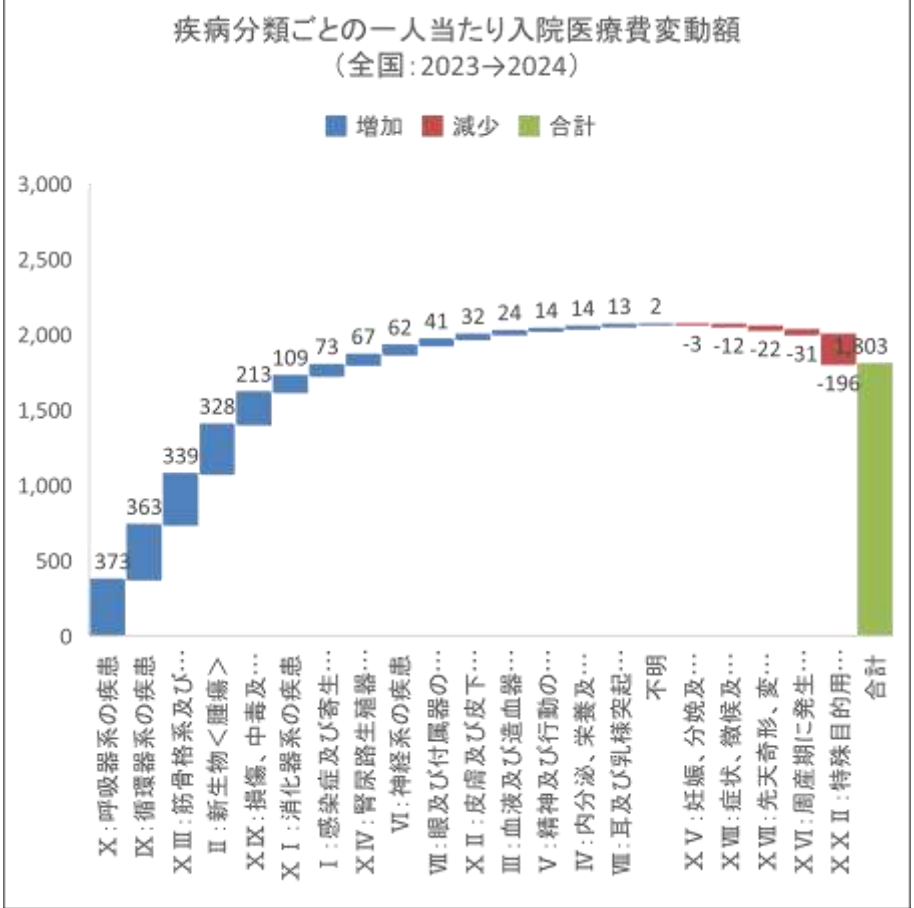
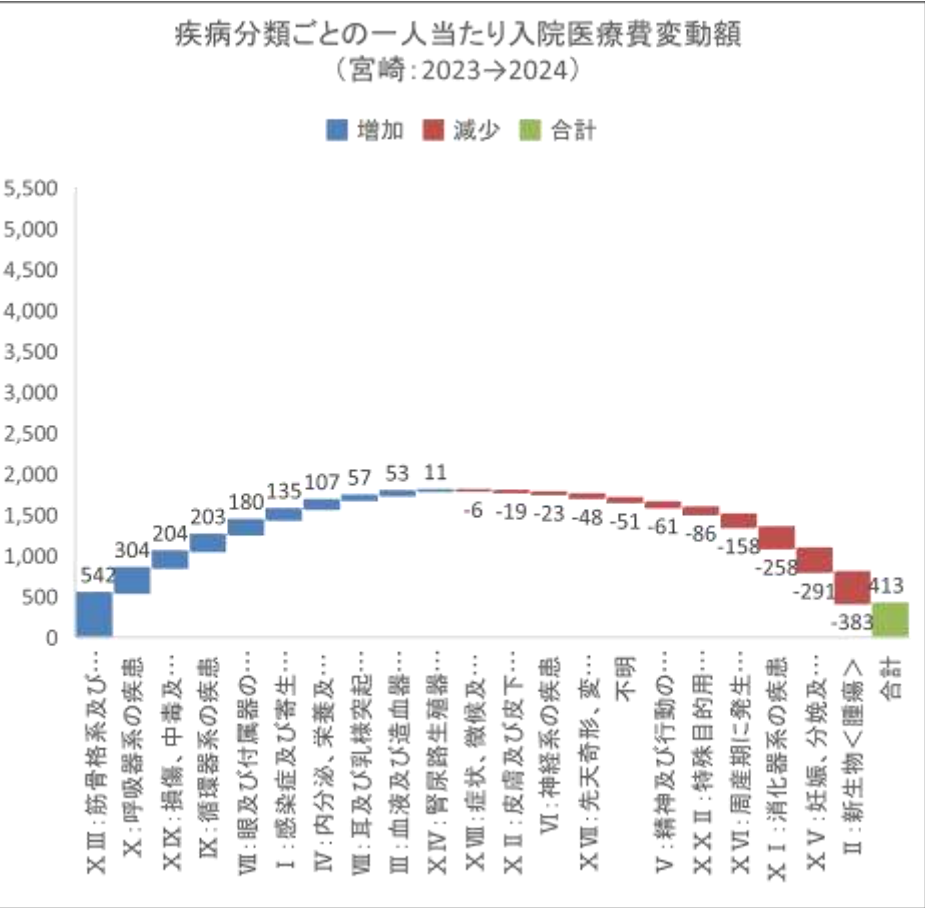
疾病大分類	2022年度			2023年度			2024年度		
	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額
X IX：損傷、中毒及びその他の外因の影響	4,431	3,837	594	4,907	4,042	866	5,112	4,255	857
X III：筋骨格系及び結合組織の疾患	4,835	4,360	475	5,190	4,577	614	5,733	4,916	817
X V：妊娠、分娩及び産じょく	2,982	2,047	935	3,112	2,017	1,094	2,820	2,015	806
II：新生物〈腫瘍〉	12,619	12,545	73	14,358	13,093	1,265	13,975	13,421	554
VII：眼及び付属器の疾患	1,083	914	170	1,103	956	147	1,283	997	286



疾病大分類	2022年度			2023年度			2024年度		
	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額
IX：循環器系の疾患	15,362	13,438	1,924	15,550	13,438	2,111	15,191	13,340	1,852
X：呼吸器系の疾患	17,249	15,715	1,534	20,366	19,094	1,273	18,371	18,092	278
X X II：特殊目的用コード	6,747	5,824	923	3,665	3,297	368	1,678	1,479	199
X III：筋骨格系及び結合組織の疾患	9,424	9,219	205	9,675	9,281	394	9,680	9,491	190
不明	1,246	1,048	199	1,323	1,106	217	1,283	1,100	183

6-3.医療費の疾病別年度間の増減比較

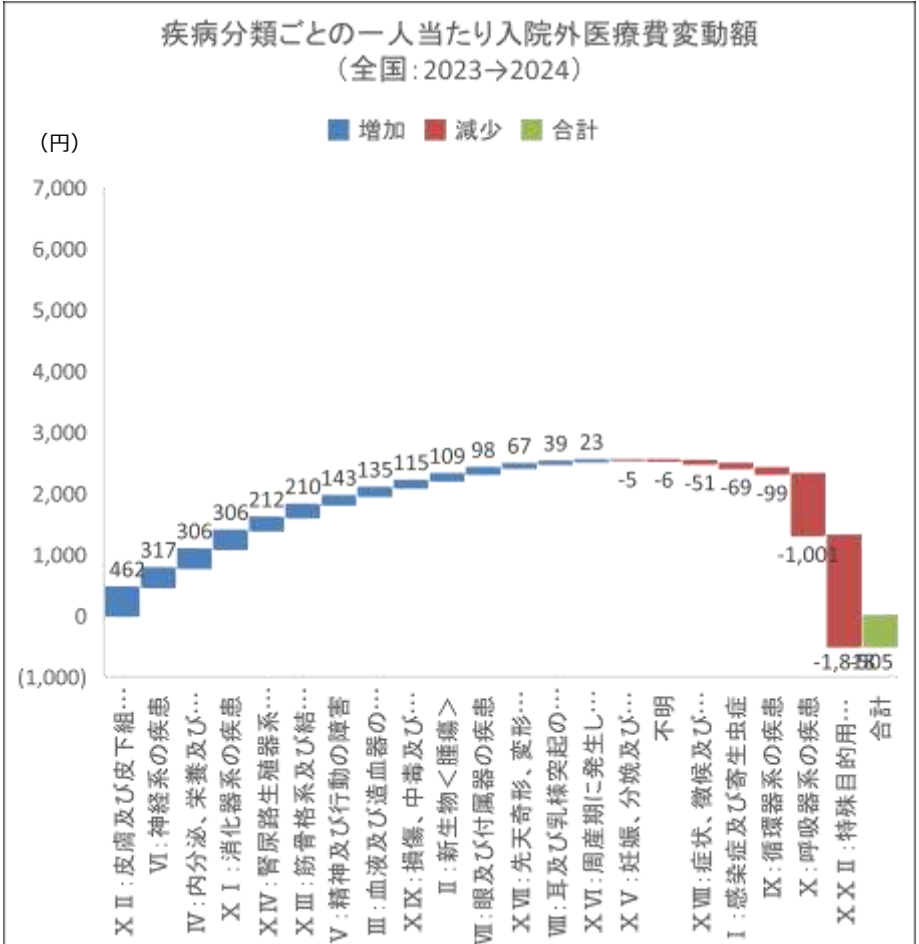
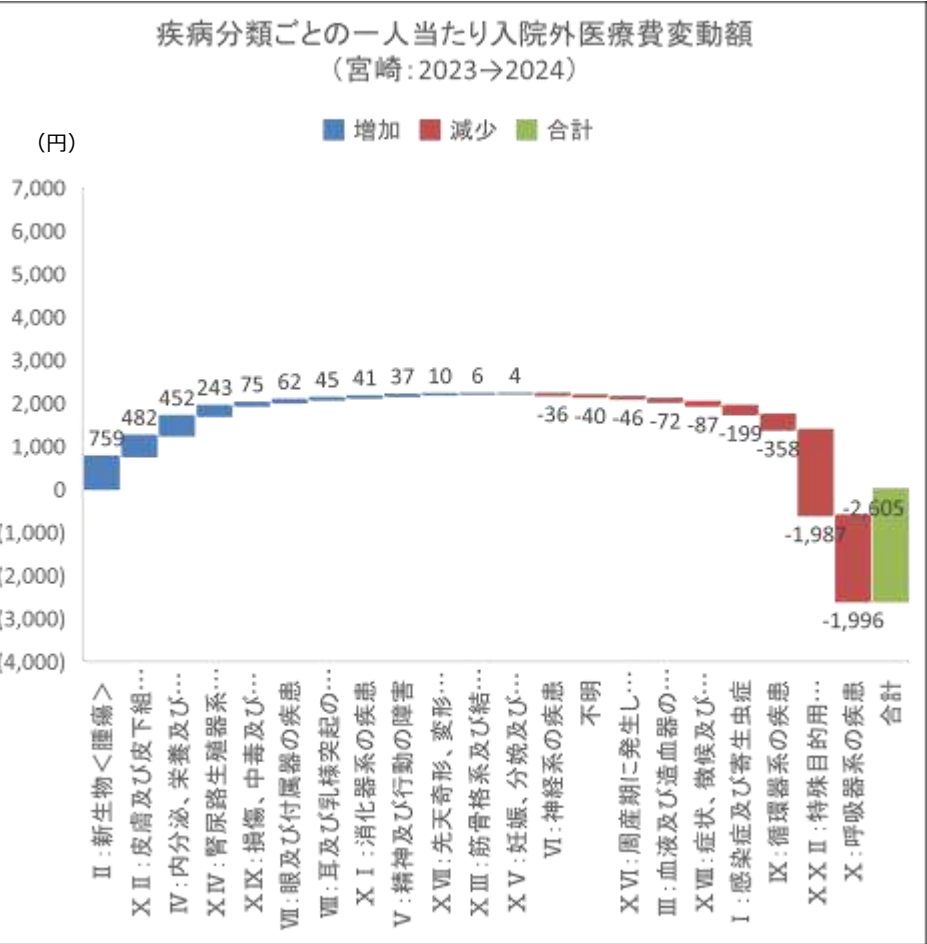
疾病別の一人当たり入院医療費の増減を確認すると、宮崎では昨年度大幅に増加していた「新生物〈腫瘍〉」が減少している。「筋骨格系及び結合組織の疾患」が最も増加している。



※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

6-3.医療費の疾病別年度間の増減比較

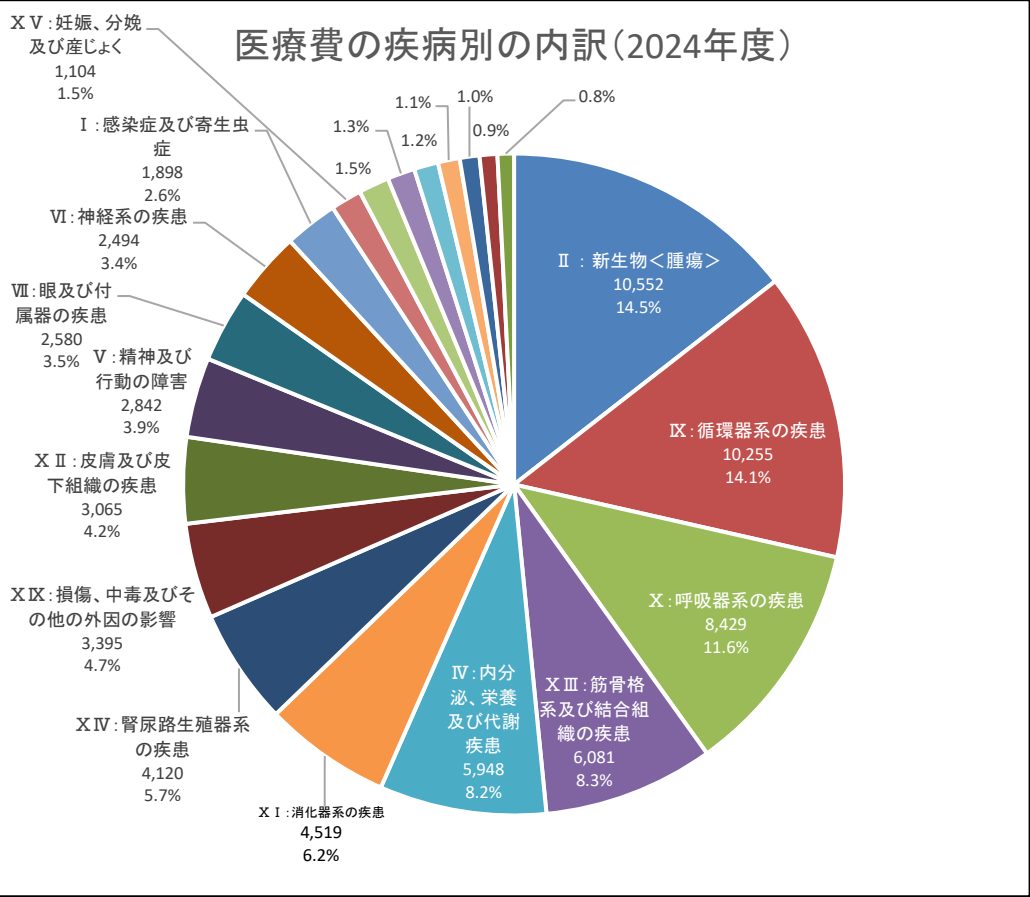
疾病別の一人当たり入院外医療費の増減を確認すると、宮崎と全国いずれも「呼吸器系の疾患」は大幅に減少した。宮崎では「新生物〈腫瘍〉」が最も増加した。



※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

7-1.疾病別医療費の状況

疾病別の医療費を見ると、「新生物〈腫瘍〉」と「循環器系の疾患」がそれぞれ100億円を超えている。新型コロナの影響により大幅に増加した「呼吸器系の疾患」は、減少した。



※加入者基本情報、医療費基本情報より。

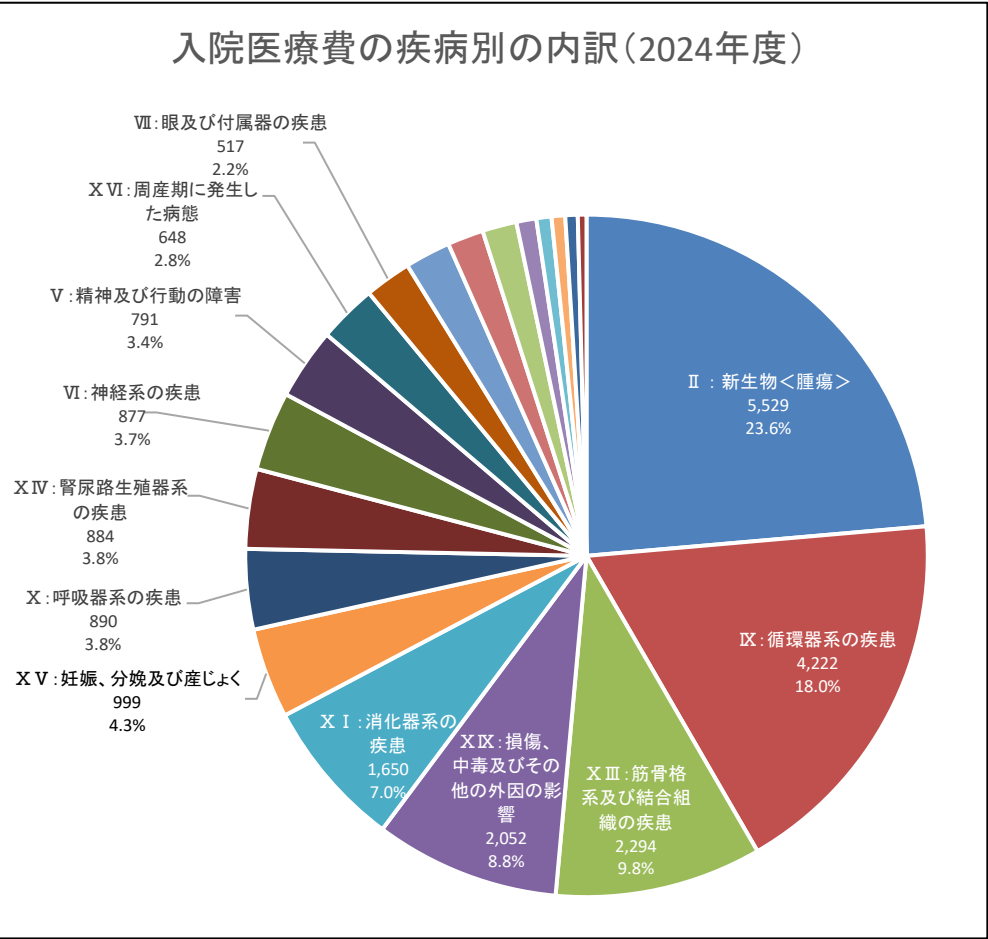
(疾病別医療費の金額と構成割合の推移) (単位: 百万円)

疾病大分類	2023 年度	構成割合	2024 年度	構成割合
II: 新生物<腫瘍>	10,446	14.1%	10,552	14.5%
IX: 循環器系の疾患	10,342	14.0%	10,255	14.1%
X: 呼吸器系の疾患	9,221	12.4%	8,429	11.6%
IXIII: 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,883	7.9%	6,081	8.3%
IV: 内分泌、栄養及び代謝疾患	5,766	7.8%	5,948	8.2%
XI: 消化器系の疾患	4,625	6.2%	4,519	6.2%
XIV: 泌尿路生殖器系の疾患	4,052	5.5%	4,120	5.7%
XIX: 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,282	4.4%	3,395	4.7%
XII: 皮膚及び皮下組織の疾患	2,887	3.9%	3,065	4.2%
V: 精神及び行動の障害	2,853	3.8%	2,842	3.9%
VI: 神経系の疾患	2,486	3.4%	2,580	3.5%
VII: 眼及び付属器の疾患	2,526	3.4%	2,494	3.4%
I: 感染症及び寄生虫症	1,936	2.6%	1,898	2.6%
XXII: 特殊目的用コード	1,216	1.6%	1,104	1.5%
XV: 妊娠、分娩及び産じょく	1,095	1.5%	1,090	1.5%
III: 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	1,024	1.4%	980	1.3%
XXVIII: 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	884	1.2%	863	1.2%
XXVII: 先天奇形、変形及び染色体異常	876	1.2%	776	1.1%
XVI: 周産期に発生した病態	1,519	2.0%	702	1.0%
不明	668	0.9%	632	0.9%
VIII: 耳及び乳突突起の疾患	547	0.7%	586	0.8%
合計	74,131		72,913	

※医療費の数値は年齢調整を行っていない医療費総額。

7-2.疾病別入院医療費の状況

2023年度と比較して入院医療費は全体で約1.2億円増加した。「循環器系の疾患」・「損傷、中毒及びその他の外因の影響」の医療費が約0.8億円、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が約2.1億円増加した。



※加入者基本情報、医療費基本情報より。

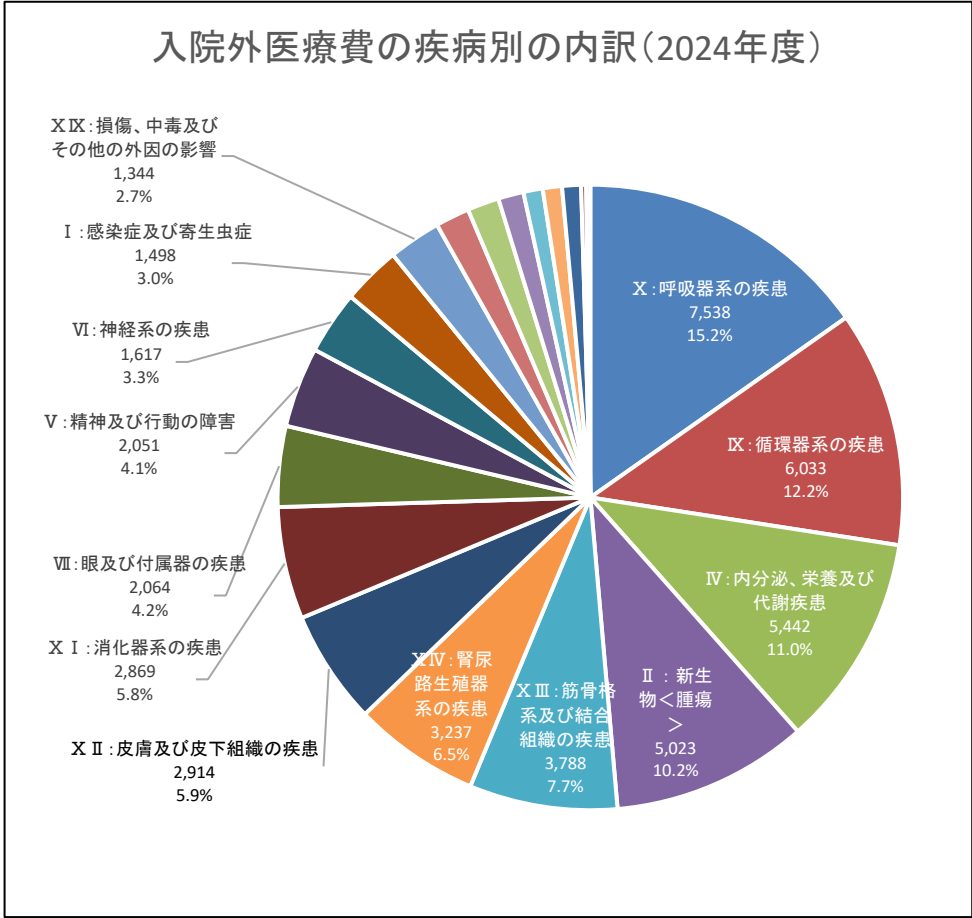
(疾病別入院医療費の金額と構成割合の推移) (単位: 百万円)

疾病大分類	2023年度	構成割合	2024年度	構成割合
II: 新生物<腫瘍>	5,695	24.4%	5,529	23.6%
IX: 循環器系の疾患	4,134	17.7%	4,222	18.0%
XIII: 筋骨格系及び結合組織の疾患	2,082	8.9%	2,294	9.8%
XIX: 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,964	8.4%	2,052	8.7%
XI: 消化器系の疾患	1,755	7.5%	1,650	7.0%
XV: 妊娠、分娩及び産じょく	1,112	4.8%	999	4.3%
XIV: 腎尿路生殖器系の疾患	889	3.8%	884	3.8%
VI: 神経系の疾患	887	3.8%	877	3.7%
V: 精神及び行動の障害	808	3.5%	791	3.4%
X: 呼吸器系の疾患	785	3.4%	890	3.8%
XVI: 周産期に発生した病態	726	3.1%	648	2.8%
IV: 内分泌、栄養及び代謝疾患	460	2.0%	506	2.2%
XVII: 眼及び付属器の疾患	445	1.9%	517	2.2%
XVII: 先天奇形、変形及び染色体異常	402	1.7%	380	1.6%
I: 感染症及び寄生虫症	350	1.5%	400	1.7%
III: 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	198	0.8%	221	0.9%
XVIII: 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	172	0.7%	168	0.7%
不明	158	0.7%	138	0.6%
XII: 皮膚及び皮下組織の疾患	158	0.7%	150	0.6%
XXII: 特殊目的用コード	83	0.4%	52	0.2%
VIII: 耳及び乳様突起の疾患	73	0.3%	96	0.4%
合計	23,335		23,463	

※医療費の数値は年齢調整を行っていない医療費総額。

7-3.疾病別入院外医療費の状況

入院外の医療費は全体で約13億円減少した。新型コロナが該当する「特殊目的用コード」は前年度からさらに約7億円減少し、「呼吸器系の疾患」は前年度から約9億円減少した。「呼吸器系の疾患」は前年度に続き最も入院外医療費が多い疾病であった。



※加入者基本情報、医療費基本情報より。

(疾病別入院外医療費の金額と構成割合の推移) (単位: 百万円)

疾病大分類	2023年度	構成割合	2024年度	構成割合
X:呼吸器系の疾患	8,435	16.6%	7,538	15.2%
IX:循環器系の疾患	6,208	12.2%	6,033	12.2%
IV:内分泌、栄養及び代謝疾患	5,306	10.4%	5,442	11.0%
II:新生物<腫瘍>	4,751	9.4%	5,023	10.2%
XIII:筋骨格系及び結合組織の疾患	3,801	7.5%	3,788	7.7%
XIV:腎尿路生殖器系の疾患	3,163	6.2%	3,237	6.5%
XI:消化器系の疾患	2,870	5.7%	2,869	5.8%
XXII:特殊目的用コード	1,436	2.8%	650	1.3%
XII:皮膚及び皮下組織の疾患	2,729	5.4%	2,914	5.9%
VII:眼及び付属器の疾患	2,041	4.0%	2,064	4.2%
V:精神及び行動の障害	2,045	4.0%	2,051	4.1%
I:感染症及び寄生虫症	1,587	3.1%	1,498	3.0%
VI:神経系の疾患	1,639	3.2%	1,617	3.3%
XIX:損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,318	2.6%	1,344	2.7%
XVIII:症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	852	1.7%	813	1.6%
III:血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	897	1.8%	869	1.8%
不明	510	1.0%	494	1.0%
VIII:耳及び乳様突起の疾患	473	0.9%	490	1.0%
XVII:先天奇形、変形及び染色体異常	482	0.9%	483	1.0%
XVI:周産期に発生した病態	150	0.3%	128	0.3%
XV:妊娠、分娩及び産じょく	104	0.2%	105	0.2%
合計	50,796		49,450	

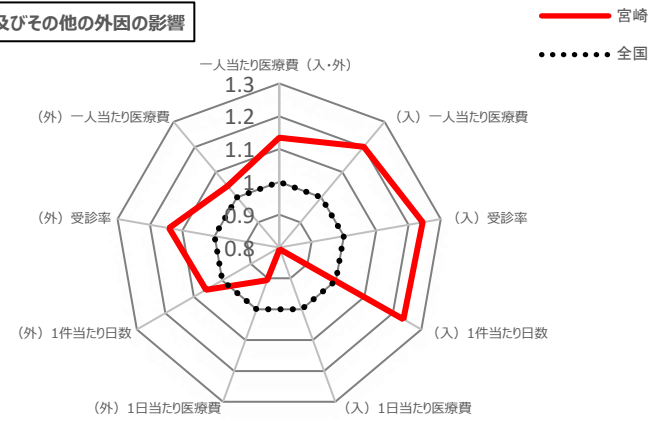
※医療費の数値は年齢調整を行っていない医療費総額。

8-2.傷病別医療費の三要素分解

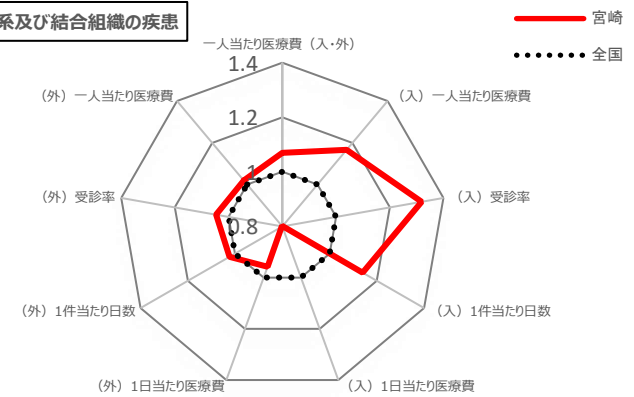
入院医療費が高い「損傷、中毒及びその他の外因の影響」は入院受診率の高さと1件当たりの入院日数が長いことが影響している。「筋骨格系及び結合組織の疾患」も入院受診率の高さと1件当たりの入院日数が長いことが影響している。

入院外医療費が高い「循環器系の疾患」は入院外受診率が高いことが影響している。「新生物〈腫瘍〉」は入院受診率が高いが、入院外受診率と1日当たり医療費は低いため全国平均を大きく下回っている。

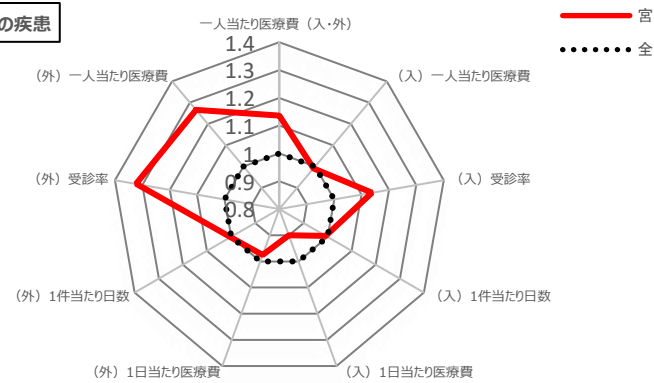
損傷、中毒及びその他の外因の影響



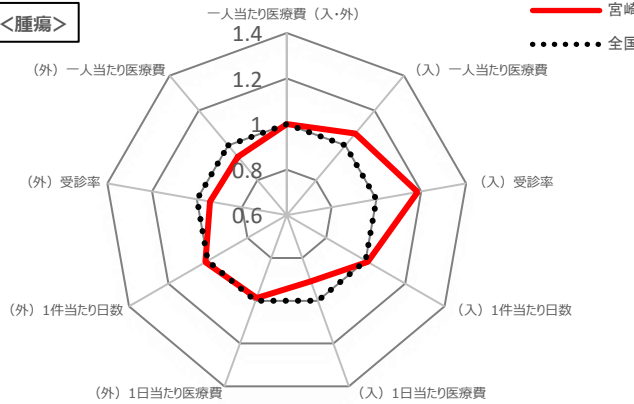
筋骨格系及び結合組織の疾患



循環器系の疾患



新生物〈腫瘍〉



● 全国の三要素を基準「1」（黒点線）とした時の、支部（赤線）の三要素を指数で表示したもの（入院は（入）、入院外は（外）と表示）。一人当たり医療費は年齢調整後。

【一人当たり医療費を構成する三要素】

一人当たり医療費
(医療費÷人数)

×

受診率
(レセプト件数÷人数)

×

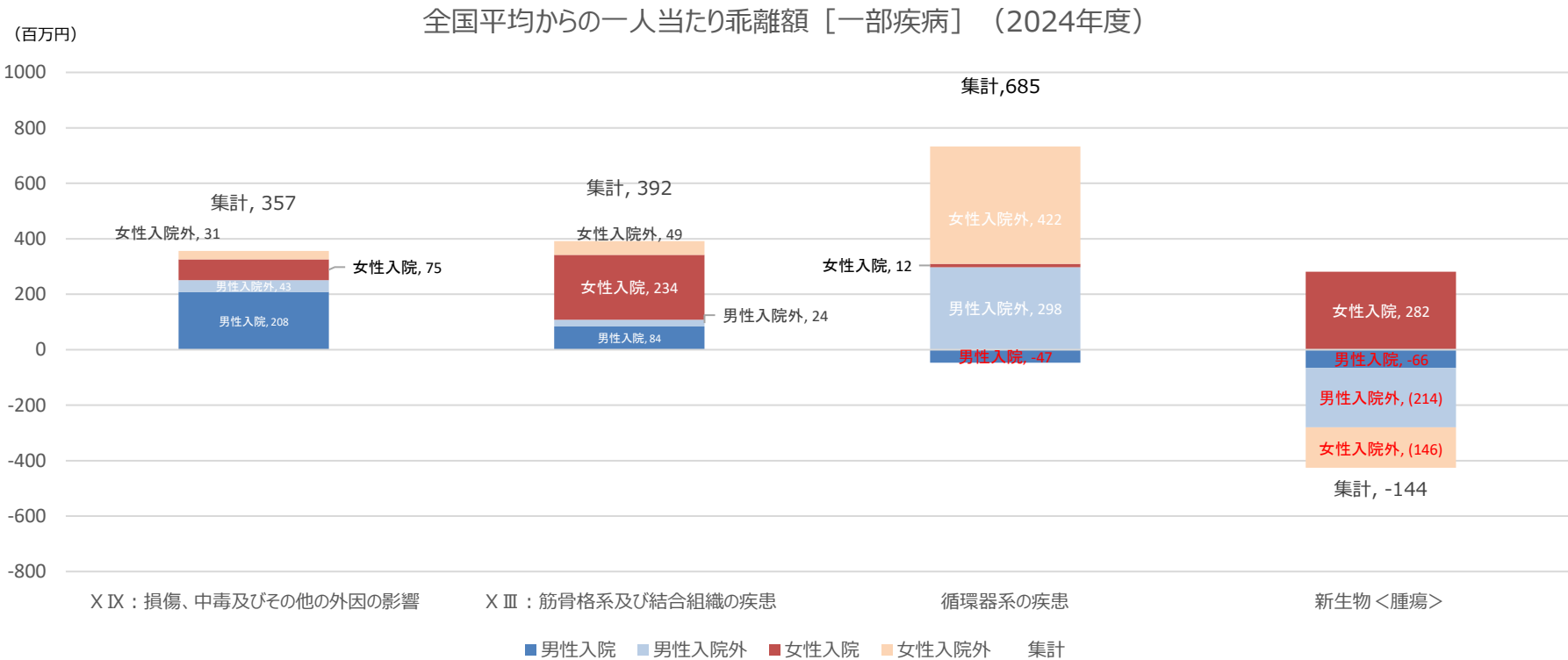
1件当たり日数
(診療実日数÷レセプト件数)

×

1日当たり医療費
(医療費÷診療実日数)

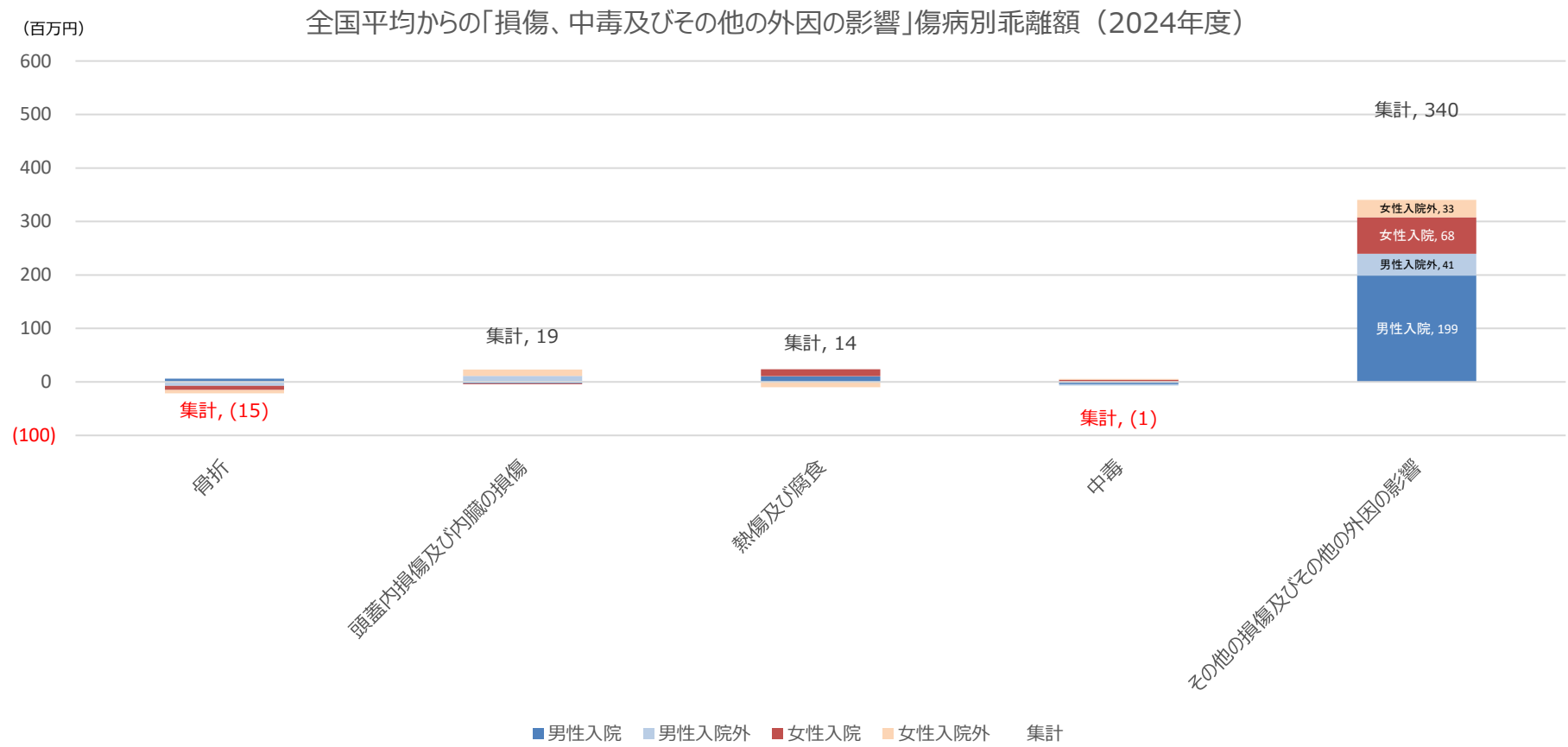
8-1. 疾病別医療費の全国からの乖離状況

疾病別の入院・入院外一人当たり医療費について、全国平均との乖離が＋1,000円以上ある3疾病（「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「循環器系の疾患」）入院外一人当たり全国平均との乖離が－925円の「新生物＜腫瘍＞」について、乖離額を確認すると、最も高いのは前年度に引き続き「循環器系の疾患」であり、金額は＋約6.8億円であった。続いて「筋骨格系及び結合組織の疾患」は＋約3.9億円であった。「新生物＜腫瘍＞」は、女性入院医療費＋約2.8億円であったが、入院外医療費－約3.5億円であり、全体では約－1.4億円となった。



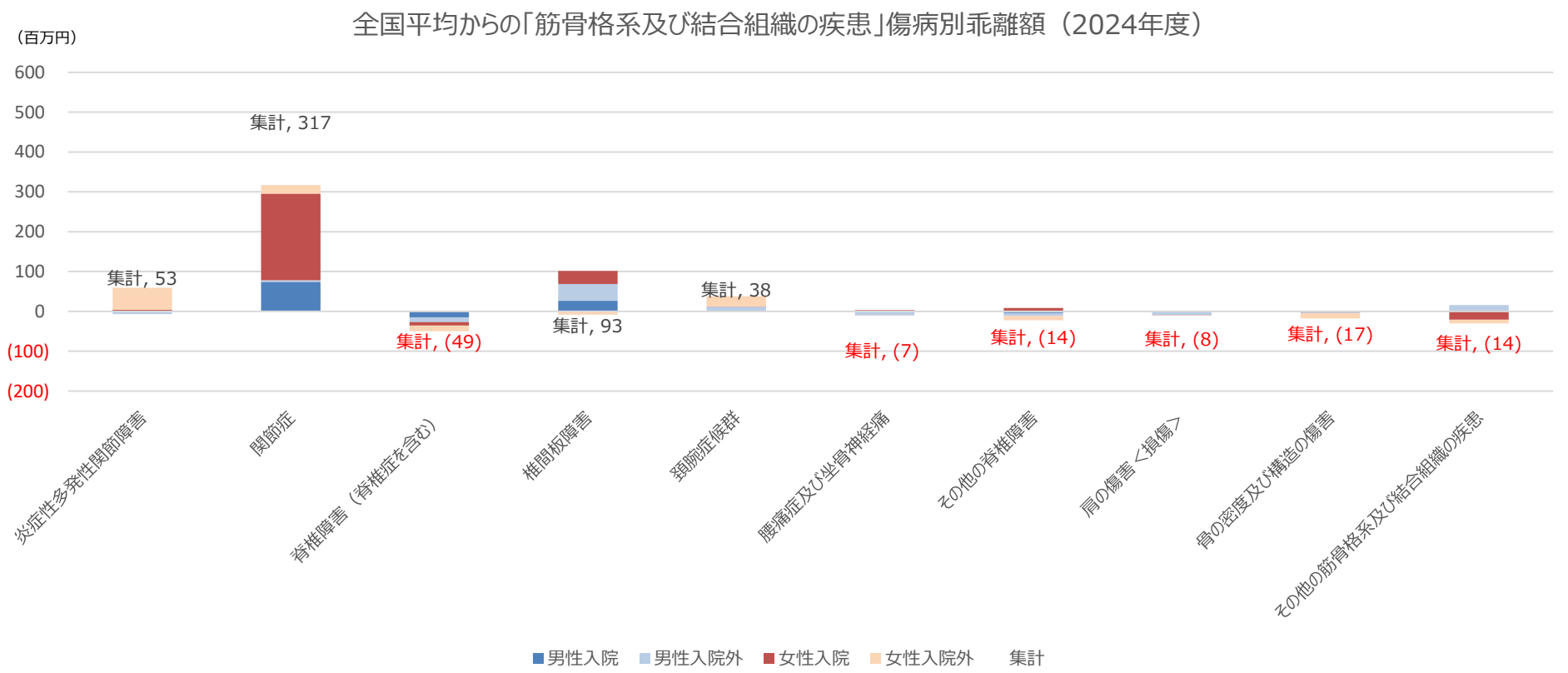
8-3.「損傷、中毒及びその他の外因の影響」の乖離状況の細分類

入院医療費において1番目にプラス乖離が大きい「損傷、中毒及びその他の外因の影響」をより細かい分類で確認すると、全体の8割近くは「その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響」が占めている（約3.4億円）。入院外医療費では、入院のように大きな乖離はみられないが、「その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響」において約0.7億円の乖離があった。



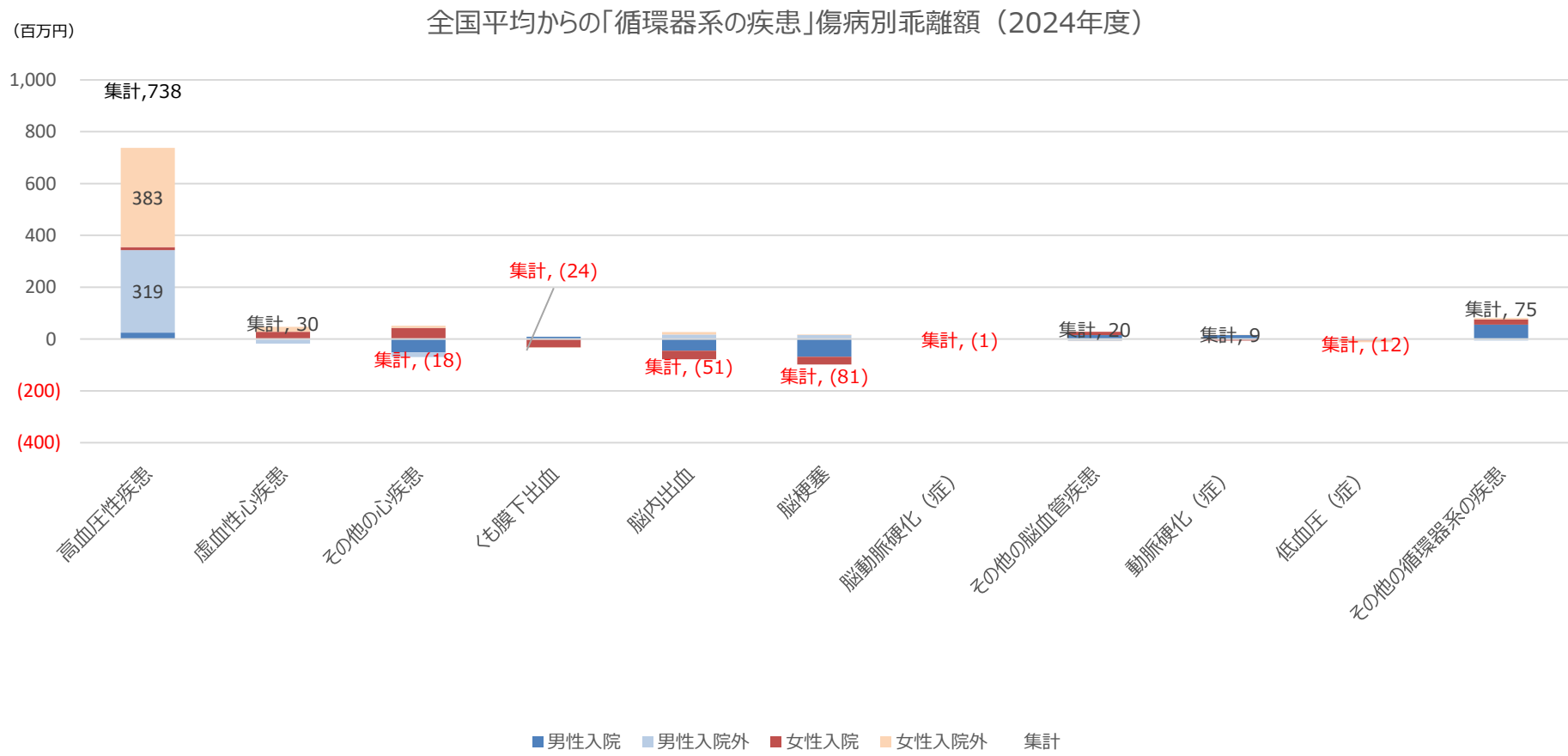
8-4.「筋骨格系及び結合組織の疾患」の乖離状況の細分類

入院医療費において2番目にプラス乖離が大きい「筋骨格系及び結合組織の疾患」をより細かい分類で確認すると、男女ともに「関節症」で乖離が大きく、約3.2億円のプラス乖離となった。「炎症性多発性関節障害」は女性入院外が約0.6億円のプラス乖離となった。入院は約3.2億円のプラス乖離、入院外は約0.7億円のプラス乖離となり、疾病全体では約3.9億円のプラス乖離となった。



8-5.「循環器系の疾患」の乖離状況の細分類

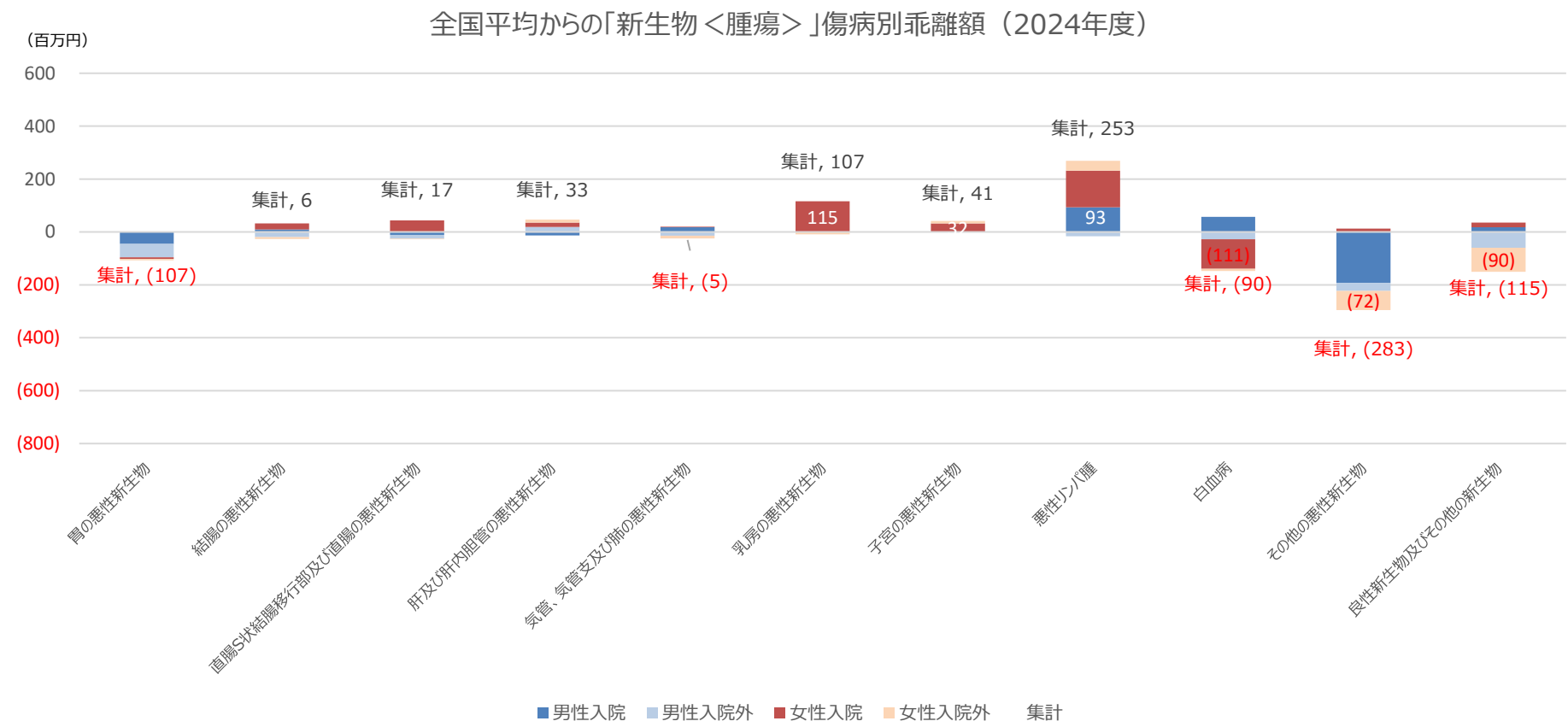
入院外医療費において最もプラス乖離が大きい「循環器系の疾患」をより細かい分類で確認すると、その殆どが「高血圧性疾患」により発生していた。これは、「本態性高血圧」と呼ばれる一般的な高血圧の治療から発生しており、「高血圧性疾患」の乖離額は約7.4億円であり、前年度の約8.2億円からは約0.8億円減少した。



8-6.「新生物〈腫瘍〉」の乖離状況の細分類

「新生物〈腫瘍〉」をより細かい分類で確認すると、男性では「悪性リンパ腫」、女性では「乳房の悪性新生物」、において乖離額が大きい。

「白血病」がー約0.9億円。「その他の悪性新生物」がー2.8億円とマイナス乖離であり、「新生物〈腫瘍〉」全体では乖離額はマイナスとなった。



9.まとめ

（加入者数、報酬）

2024年度は、被保険者は増加し、被扶養者は前年度に引き続き減少した。被保険者では10歳代、20歳代、50歳代の年齢階層が増加しており、5年度間の推移を確認すると50歳代以上の占める割合は増加している。

被保険者の標準報酬月額は継続して上昇しており、対前年度伸び率は全国平均と同程度である。

（保険給付費の状況）

2024年度の保険給付費は約711億円と前年度より約1.2億円減少し、対前年度比－0.2%であった。医療給付費の中では、入院の給付費は＋1.4%増加し、入院外の給付費が－3.7%減少した。

（入院医療費）

疾病別では、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「妊娠、分娩及び産じょく」、「新生物〈腫瘍〉」は全国平均とのプラス乖離が大きい。「損傷、中毒及びその他の外因の影響」は前年度比約2.1億円増加した。

2023年度と比較して入院医療費は全体で約1.2億円増加した。「循環器系の疾患」・「損傷、中毒及びその他の外因の影響」の医療費がそれぞれ約0.8億円、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が約2.1億円増加したことが影響された。

（入院外医療費）

全体としては約13億円の減少。その中で疾病別では、「循環器系の疾患」は全国平均と最もプラス乖離が大きく、その中でも「高血圧性疾患」は男女ともに全国平均との乖離が大きい。新型コロナが該当する「特殊目的用コード」は前年度からさらに約7億円減少し、「呼吸器系の疾患」は前年度から約9億円減少した。